

浜松市 子どもの貧困に関する実態調査

調査報告書

令和2年10月

浜松市

目次

I 子どもの生活実態調査	1
1. 調査概要	1
2. 調査結果	7
(1) 子どもの状況	9
①学習・教育	
②健康・生活習慣	
③社会性・将来の自立	
(2) 保護者の状況	24
①家庭の経済的困窮の状況	
②就労と子育ての両立	
③保護者の孤立・悩み	
(3) 各種支援・サービスの活用・認知状況	33
①保護者の事業利用状況	
②情報収集の現状と今後のニーズ	
(4) 貧困対策事業の利用ニーズ	36
①子どものニーズ	
②保護者のニーズ	
(5) 自由意見まとめ	38
II 支援者アンケート	41
1. 調査概要	41
2. 調査結果	45
(1) アンケート調査まとめ	47
(2) 記述意見まとめ	55
III 付録	59
1. 子どもの生活実態調査 調査票	59
2. 子どもの生活実態調査 集計結果	81

I 子どもの生活実態調査

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、浜松市が子ども支援の充実を図るにあたり、子育てや子どもの生活実態を把握し、今後の施策展開の基礎資料とすることを目的に実施した。

(2) 調査事項

保護者調査	子ども調査
<ul style="list-style-type: none">あなたと世帯のことについてお子さんの両親について家計状況についてお子さんとの関わりやお子さんの将来について子育ての悩みや子育て支援の制度について	<ul style="list-style-type: none">あなたのことについて健康や食事のことについてふだんの生活のことについて学校生活や勉強のことについてふだん感じていることについて

(3) 調査実施概要

- ①調査地域 浜松市全域
- ②調査対象 市内の小学5年生3,000人、中学2年生3,000人
その保護者6,000人(6,000世帯)
- ③抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- ④調査方法 質問紙郵送法
- ⑤調査期間 令和2年9月4日～25日

(4) 回収状況(世帯ベース)

発送数	有効回収数	有効回収率
6,000世帯	3,071件	51.2%

(5) 回答者の属性

①学年(子ども調査)

小学5年生	中学2年生	無回答
1,639人 53.4%	1,416人 46.1%	16人 0.5%

②性別(子ども調査)

男	女	無回答
1,458人 47.5%	1,514人 49.3%	99人 3.2%

③回答者(保護者調査)

父親	母親	その他	無回答
449人 14.6%	2,601人 84.7%	9人 0.3%	12人 0.4%

④現在の婚姻状況（保護者調査）

結婚している (再婚、事実婚を含む)	離婚 (別居中を含む)	死別	未婚	無回答
2,735人 89.1%	283人 9.2%	27人 0.9%	14人 0.5%	12人 0.4%

⑤居住区（保護者調査）

中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区	無回答
874人 28.5%	549人 17.9%	470人 15.3%	317人 10.3%	329人 10.7%	449人 14.6%	74人 2.4%	9人 0.3%

（6）本調査における困窮状況の区分の定義

厚生労働省が公表している算出方法では、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分（貧困線）に満たない世帯を「相対的貧困層」としている。

本調査においては、保護者用調査「問4」で世帯人数を、保護者用調査「問14」で可処分所得（50万円幅の区分による選択方式）についての回答を得ており、下図のとおり「困窮群」「困窮予備群」「一般群」に区分した。

なお、本区分は目安であり、困窮群等に区分されたすべての世帯が、実際に困窮しているということではない。

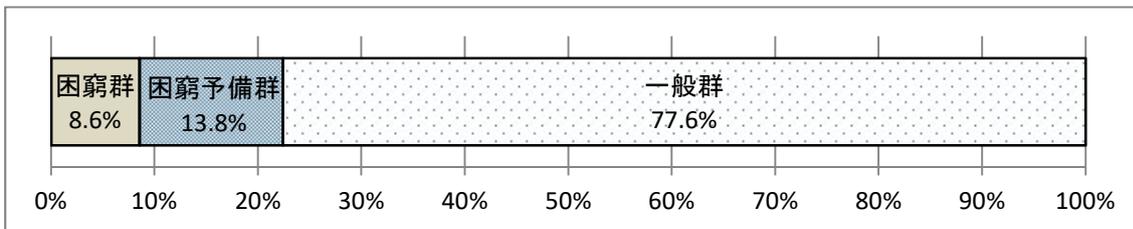
<世帯人数ごとの困窮群・予備群とみなす区分>

(保護者用 問4) 世帯員数	国調査 における 貧困線	H30国調査の中央値 253万円		(保護者用 問14)														
		困窮群 とみなす 回答区分	困窮予備群 (中央値の 3/4)	予備群 とみなす 回答区分	1~3 150万円 未満	4 150万円 ~ 200万円 未満	5 200万円 ~ 250万円 未満	6 250万円 ~ 300万円 未満	7 300万円 ~ 350万円 未満	8 350万円 ~ 400万円 未満	9 400万円 ~ 450万円 未満	10 450万円 ~ 500万円 未満	11 500万円 ~ 550万円 未満	12~20 550万円 ~ 1000万円 未満	21 1000万円 以上	22 わからない	無回答	
2人世帯	179万円	200万円 未満	268万円	300万円 未満		★		☆										
3人世帯	219万円	250万円 未満	329万円	350万円 未満			★		☆									
4人世帯	253万円	300万円 未満	380万円	400万円 未満				★		☆								
5人世帯	283万円	300万円 未満	424万円	450万円 未満				★			☆							
6人世帯	310万円	350万円 未満	465万円	500万円 未満					★			☆						
7人世帯	335万円	350万円 未満	502万円	550万円 未満					★				☆					
8人以上 世帯	358万円	400万円 未満	537万円	550万円 未満	◆困窮群 (中央値の1/2以下)					★			☆					
無回答																		

▶困窮群	： 等価可処分所得が中央値の1/2以下相当	238人
▶困窮予備群	： 等価可処分所得が中央値の1/2超3/4以下相当	385人
▶一般群	： 等価可処分所得が中央値の3/4超相当	2,156人
▶判定不能	： 世帯人数・可処分所得が不明・無回答	292人

■ 困窮状況の各群の割合（全体）

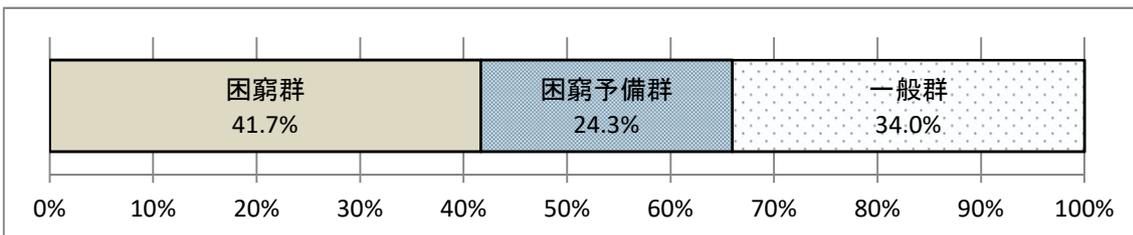
（有効回答数 2,779 人）



困窮群	238 人	8.6%
困窮予備群	385 人	13.8%
一般群	2,156 人	77.6%
有効回答数	2,779 人	100%

■ 困窮状況の各群の割合（ひとり親のみ）

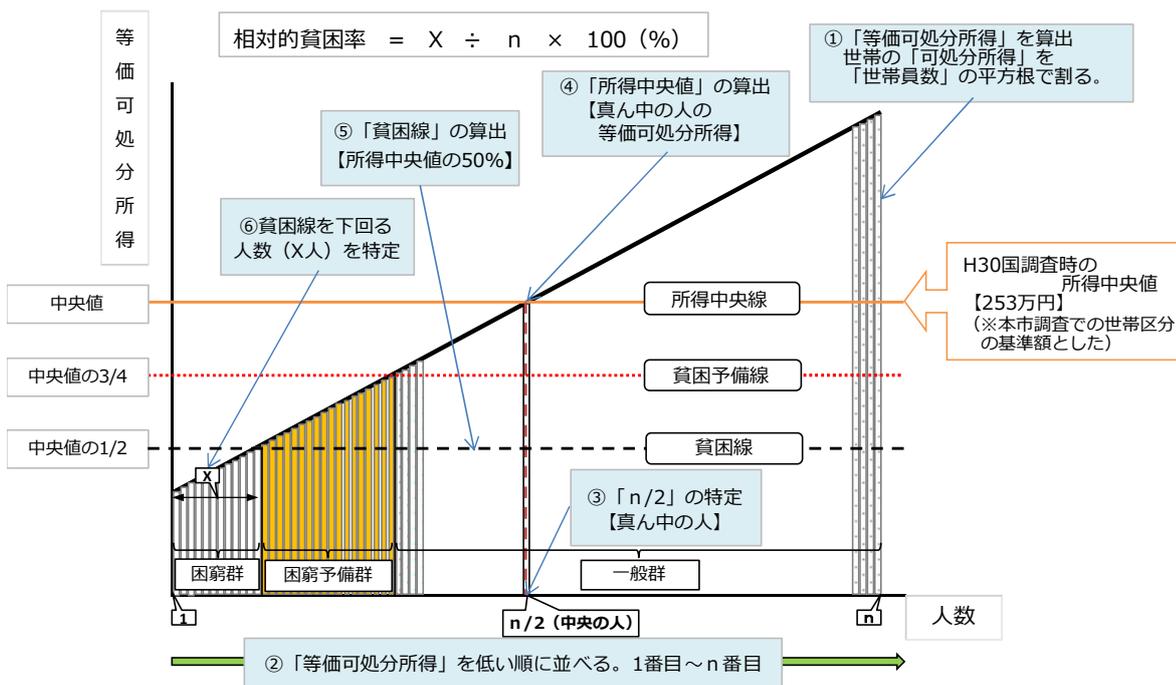
（有効回答数 288 人）



困窮群	120 人	41.7%
困窮予備群	70 人	24.3%
一般群	98 人	34.0%
有効回答数	288 人	100%

注) この群設定は目安であり、困窮群・予備群に該当した世帯が必ずしも実際の生活で困窮しているとは限らない。
また、可処分所得の算出等を簡便に行っていることから、国が公表する相対的貧困率との単純比較はできない。

【参考】 等価可処分所得から困窮群等を設定する方法（貧困線等の設定の考え方）



(7) 報告書内のデータ記述について

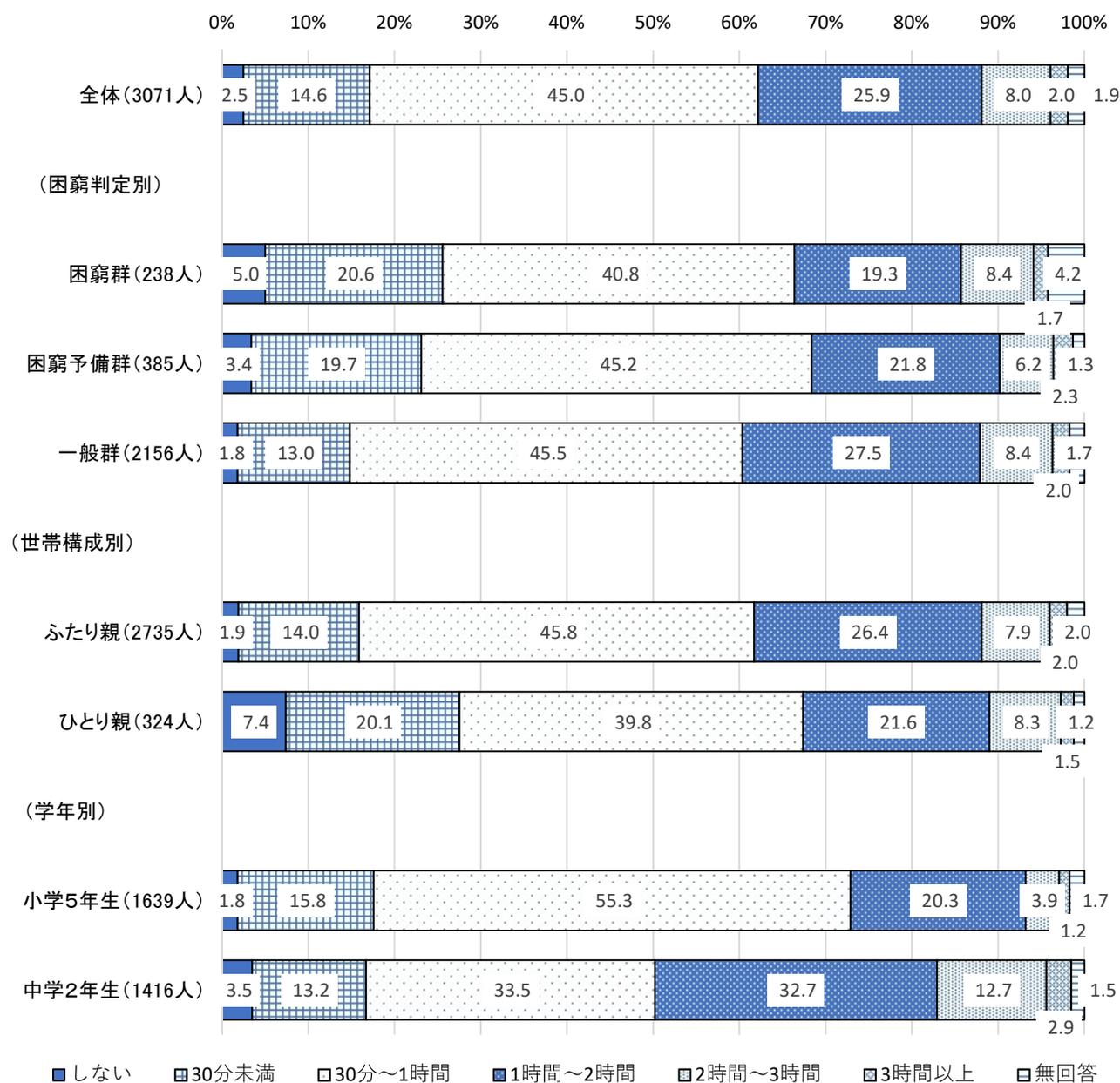
- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、比率の合計が 100%にならないことがある。
- ②質問の選択肢から複数回答を認めている場合、比率の合計は通常 100%を超える。
- ③図表中の回答選択肢が長文の場合、コンピューターの処理の都合上、省略している箇所がある。
- ④クロス集計の図表については、表側となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、各分析項目の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。

2. 調査結果

(1) 子どもの状況

①学習・教育

学校のある日の放課後の勉強時間（塾等含む） 「子ども調査 問12-a」

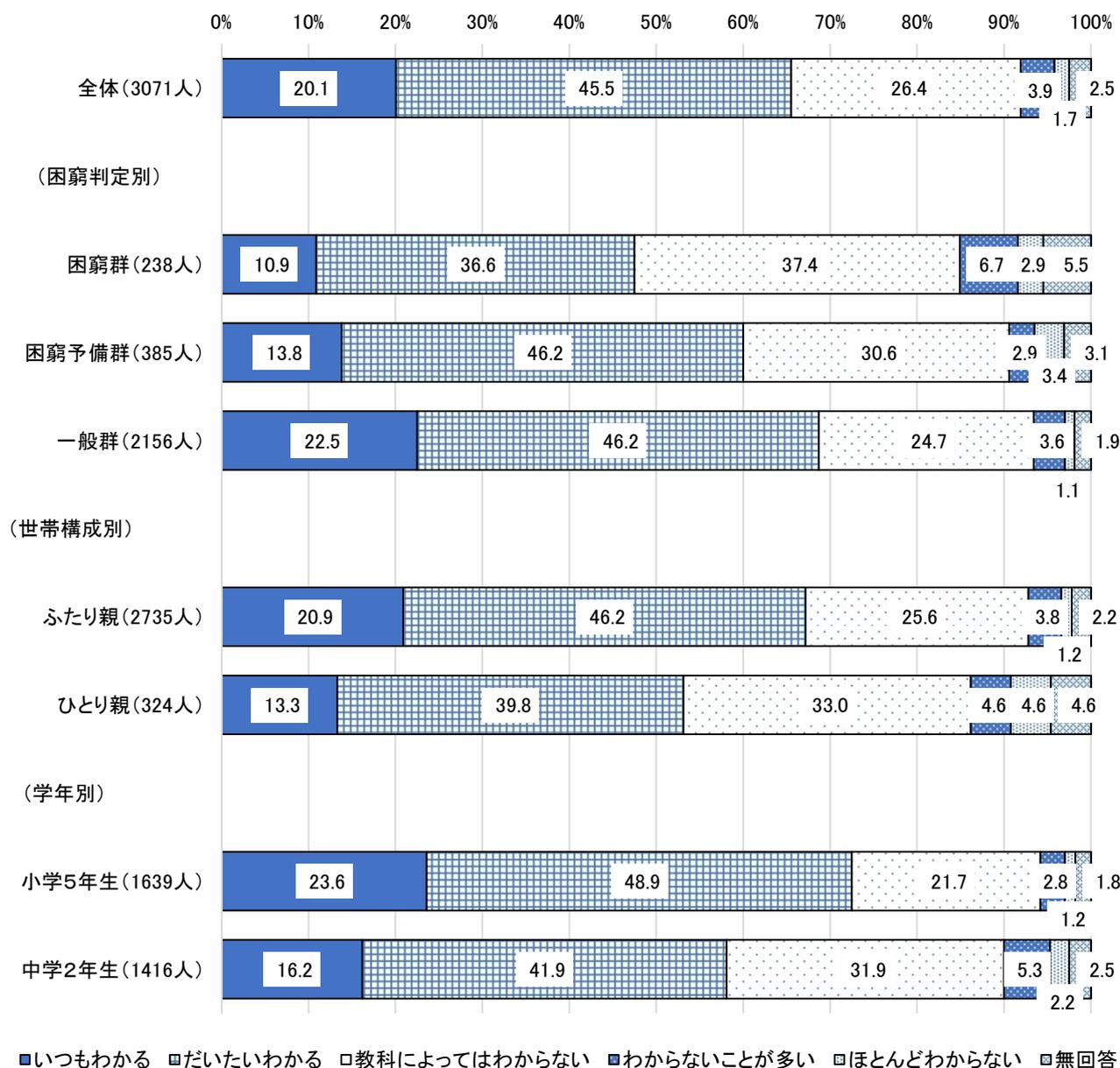


学校のある日の放課後の勉強時間（塾等含む）について、全体では「30分～1時間」が45.0%で最も高かった。「しない」は2.5%。「しない」と「30分未満」（14.6%）を合わせた『30分未満』は17.1%となった。

困窮判定別に『30分未満』の割合をみると、困窮群25.6%、困窮予備群23.1%、一般群14.8%と困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。

世帯構成別に『30分未満』の割合をみると、ふたり親15.9%、ひとり親27.5%となった。

学校の授業が分からないことがあるか 「子ども調査 問 18」



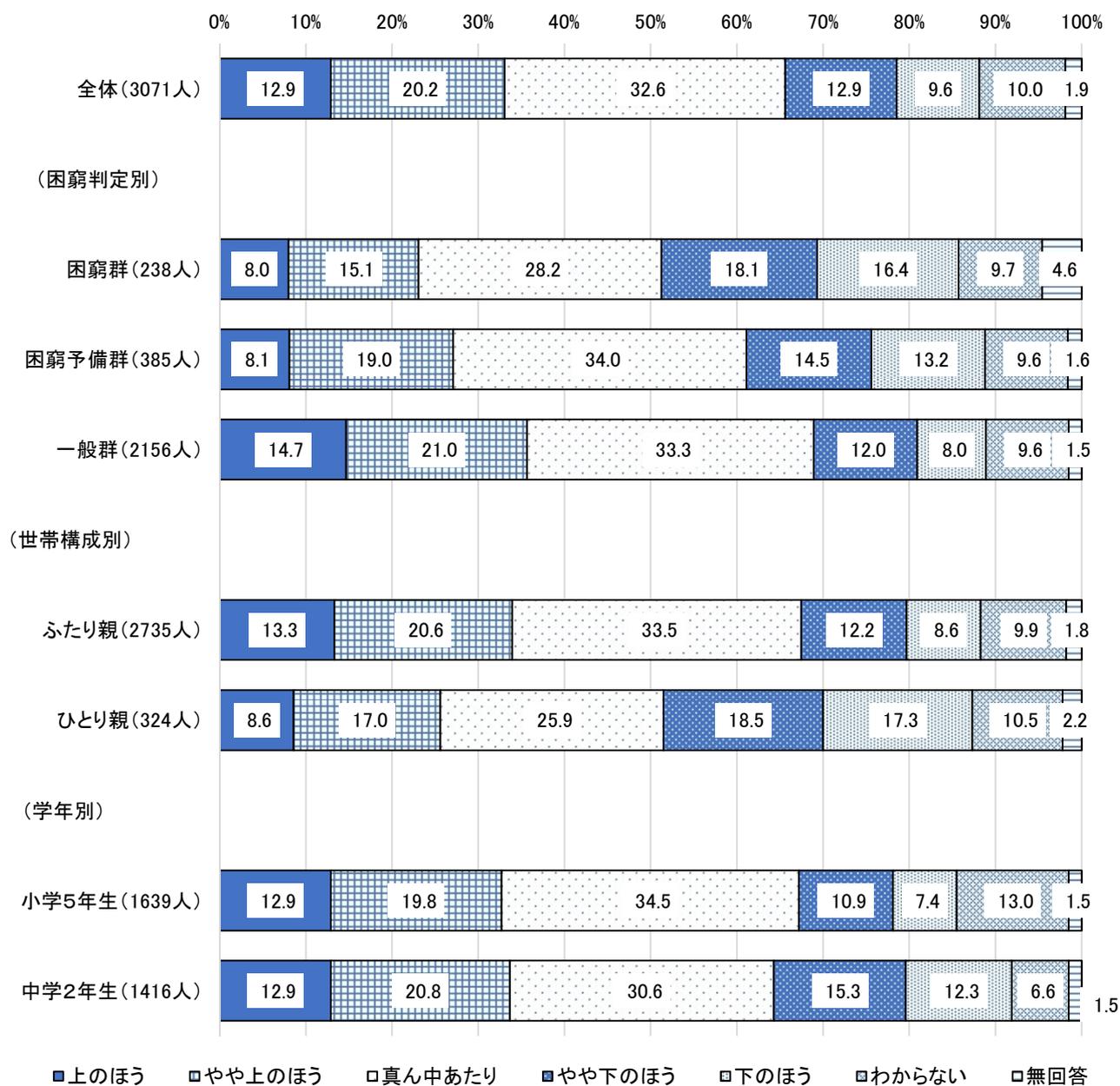
学校の授業の理解度について、全体では「いつもわかる」(20.1%)と「だいたいわかる」(45.5%)を合わせた『わかる』は65.6%となった。「教科によってはわからない」(26.4%)、「わからないことが多い」(3.9%)、「ほとんどわからない」(1.7%)をあわせた『わからない』は32.0%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『わかる』が低く、『わからない』が高くなっており、困窮群は『わかる』47.5%、『わからない』47.0%とほぼ半々の割合となった。

世帯構成別にみると、『わかる』はふたり親が67.1%、ひとり親が53.1%と14.0ポイントの差がみられた。

学年別にみると、『わかる』は小学5年生が72.5%、中学2年生が58.1%と14.4ポイントの差がみられた。

自分の成績はクラスの中でどの位と思うか 「子ども調査 問 20」

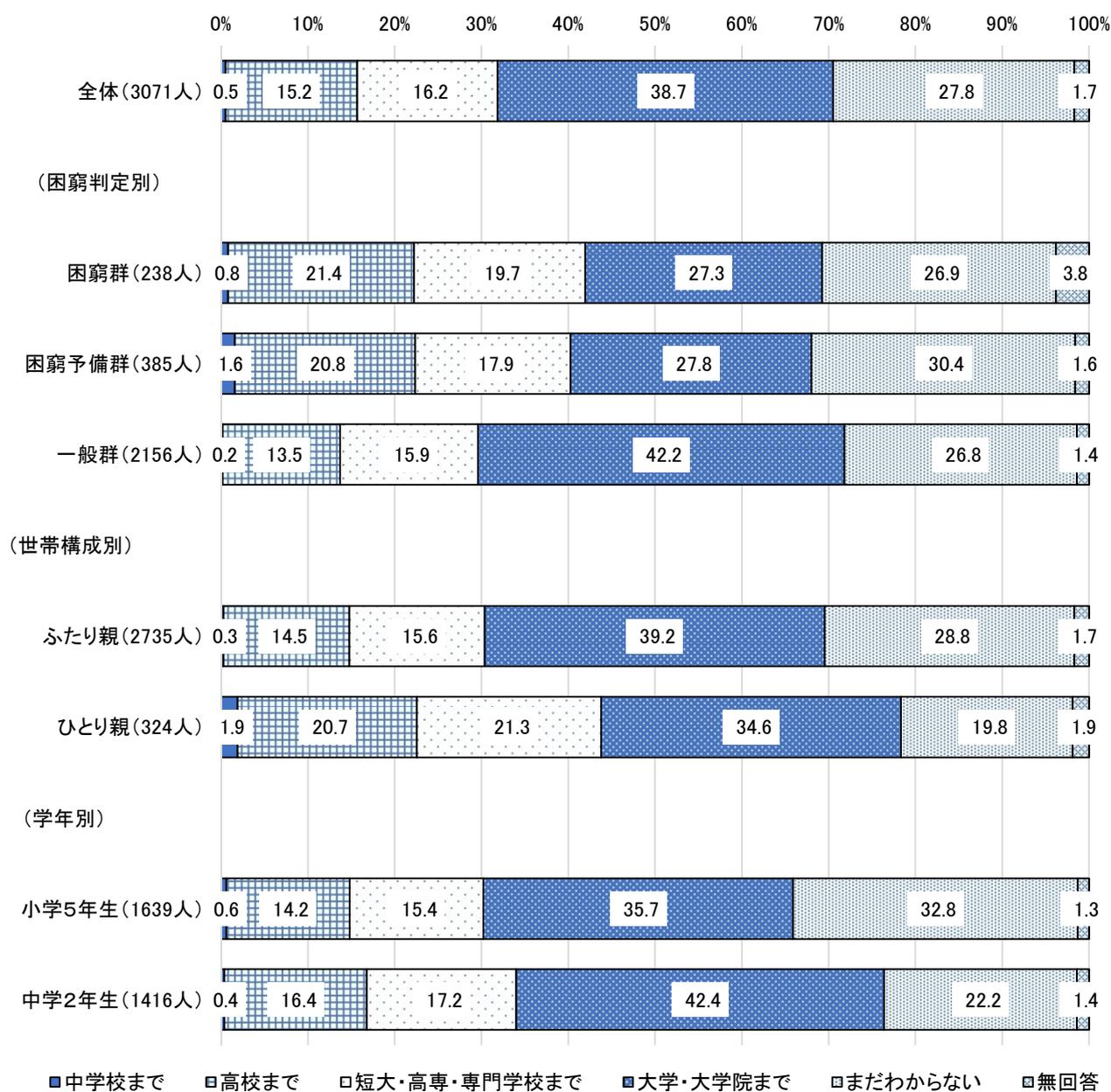


自分の成績はクラスの中でどの位と思うかについて、全体では「真ん中あたり」が 32.6%で最も高かった。「上のほう」(12.9%)と「やや上のほう」(20.2%)を合わせた『上のほう』は 33.1%、「やや下のほう」(12.9%)と「下のほう」(9.6%)を合わせた『下のほう』は 22.5%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『上のほう』が低く、『下のほう』が高くなっており、困窮群は『上のほう』(23.1%)が『下のほう』(34.5%)を 11.4ポイント下回った。

世帯構成別にみると、ふたり親は『上のほう』が『下のほう』を上回っているが、ひとり親は『下のほう』が『上のほう』を上回っている。

将来どの学校まで進みたいか 「子ども調査 問 21」

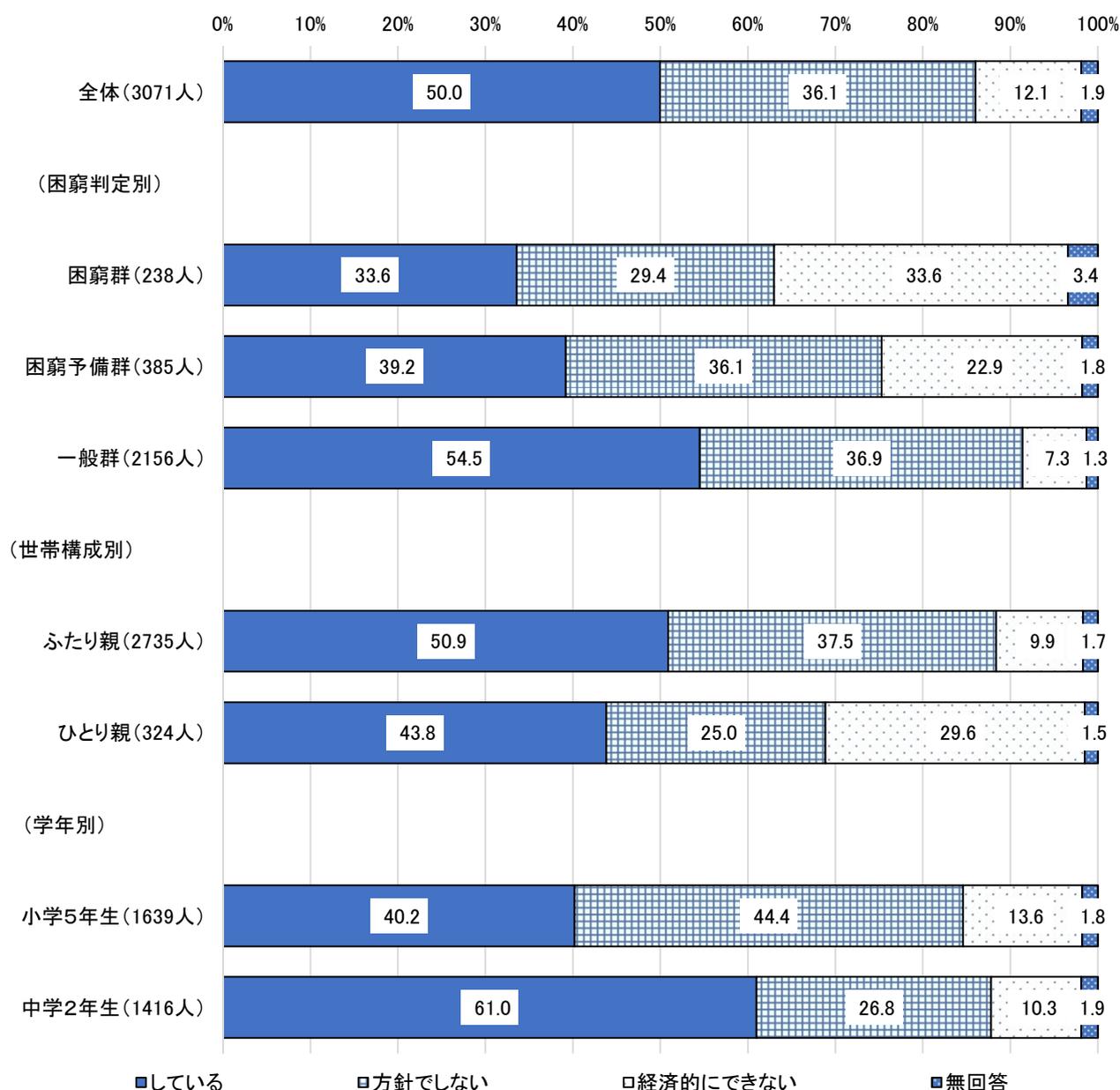


将来どの学校まで進みたいかについて、全体では「大学・大学院まで」が38.7%で最も高かった。「中学校まで」(0.5%)と「高校まで」(15.2%)を合わせた『高校まで』は15.7%だった。

困窮判定別にみると、困窮群と困窮予備群は一般群と比較して、『高校まで』が10ポイント程度高く、「大学・大学院まで」が15ポイント程度低かった。

世帯構成別にみると、『高校まで』はひとり親のほうが7.8ポイント高かった。

親が学習塾に通わせているか 「保護者調査 問 16-b」



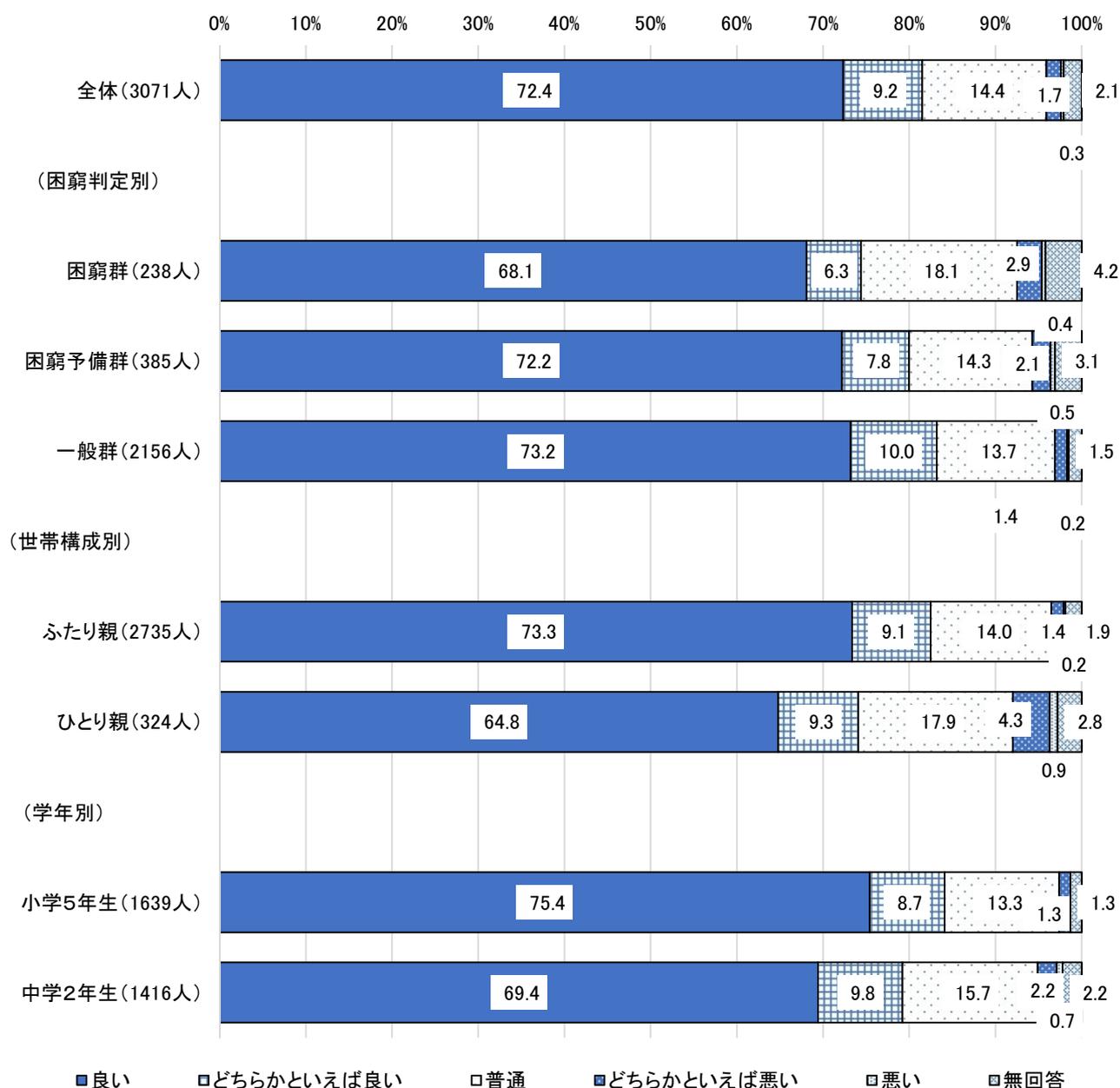
親が学習塾に通わせているかについて、全体では「している」が 50.0%と半分を占めた。通わせていない理由については、「方針でない」が 36.1%、「経済的にできない」が 12.1%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「している」が低くなり、一般群 (54.5%) と困窮群 (33.6%) は 20.9 ポイントの差があった。また、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」が高くなり、一般群が 7.3%にとどまるのに対し、困窮群は 33.6%と高かった。

世帯構成別に「経済的にできない」をみると、ふたり親が 9.9%、ひとり親が 29.6%となり、ひとり親のほうが 19.7 ポイント高かった。

②健康・生活習慣

今の健康状態 「子ども調査 問3」

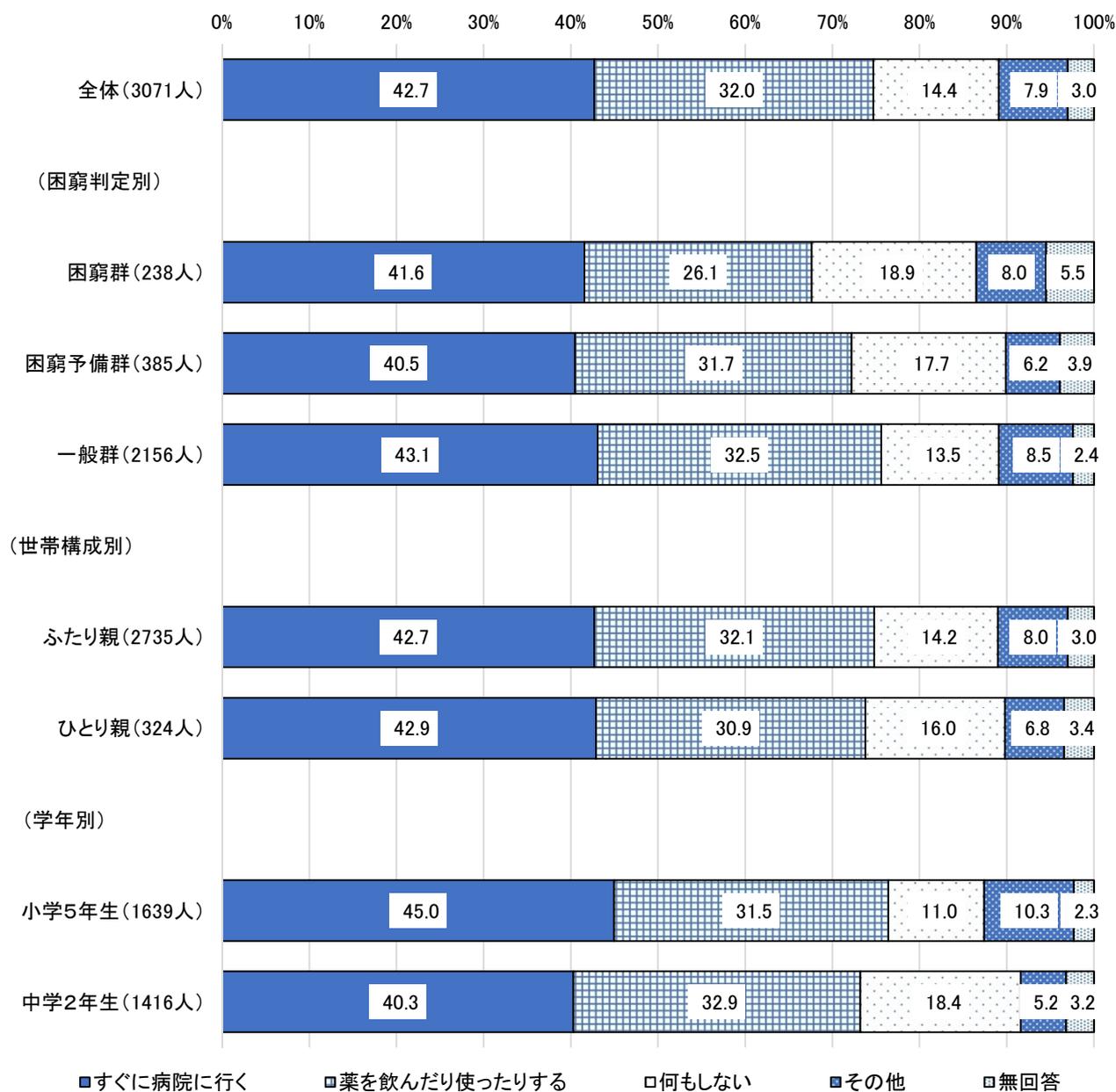


今の健康状態について、全体では「良い」が72.4%で最も高かった。「良い」と「どちらかといえば良い」を合わせた『良い』は81.6%で、「どちらかといえば悪い」(1.7%)と「悪い」(0.3%)を合わせた『悪い』は2.0%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『良い』が低くなり、『悪い』が高くなっている。ただし、困窮群でも『良い』(74.4%)が『悪い』(3.3%)を大幅に上回っている。

世帯構成別にみると、『良い』はふたり親が82.4%、ひとり親が74.1%となった。

体調が悪い時や怪我、歯痛の時にどうするか 「子ども調査 問4」

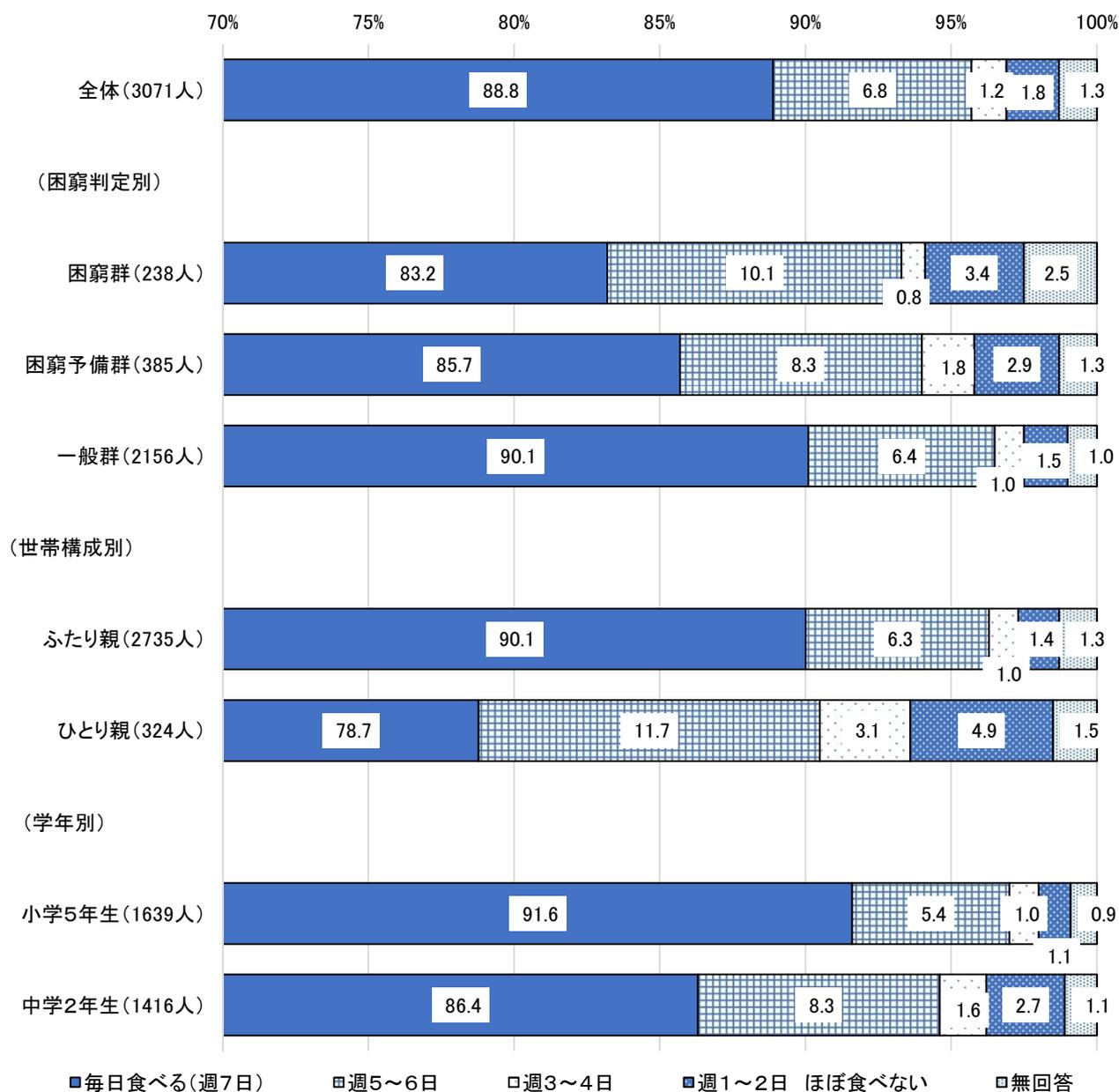


体調が悪い時や怪我・歯痛の時どうするかについて、全体では「すぐに病院に行く」が42.7%で最も高かった。次いで「薬を飲んだり使ったりする」が32.0%で高く、「何もしない」は14.4%だった。

困窮判定別にみると、「すぐに病院に行く」はいずれも40%代前半で大きな差はなかったが、「何もしない」は困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。

世帯構成別では差がほとんどなかった。

週にどのくらい朝食をとっているか 「子ども調査 問5-a」

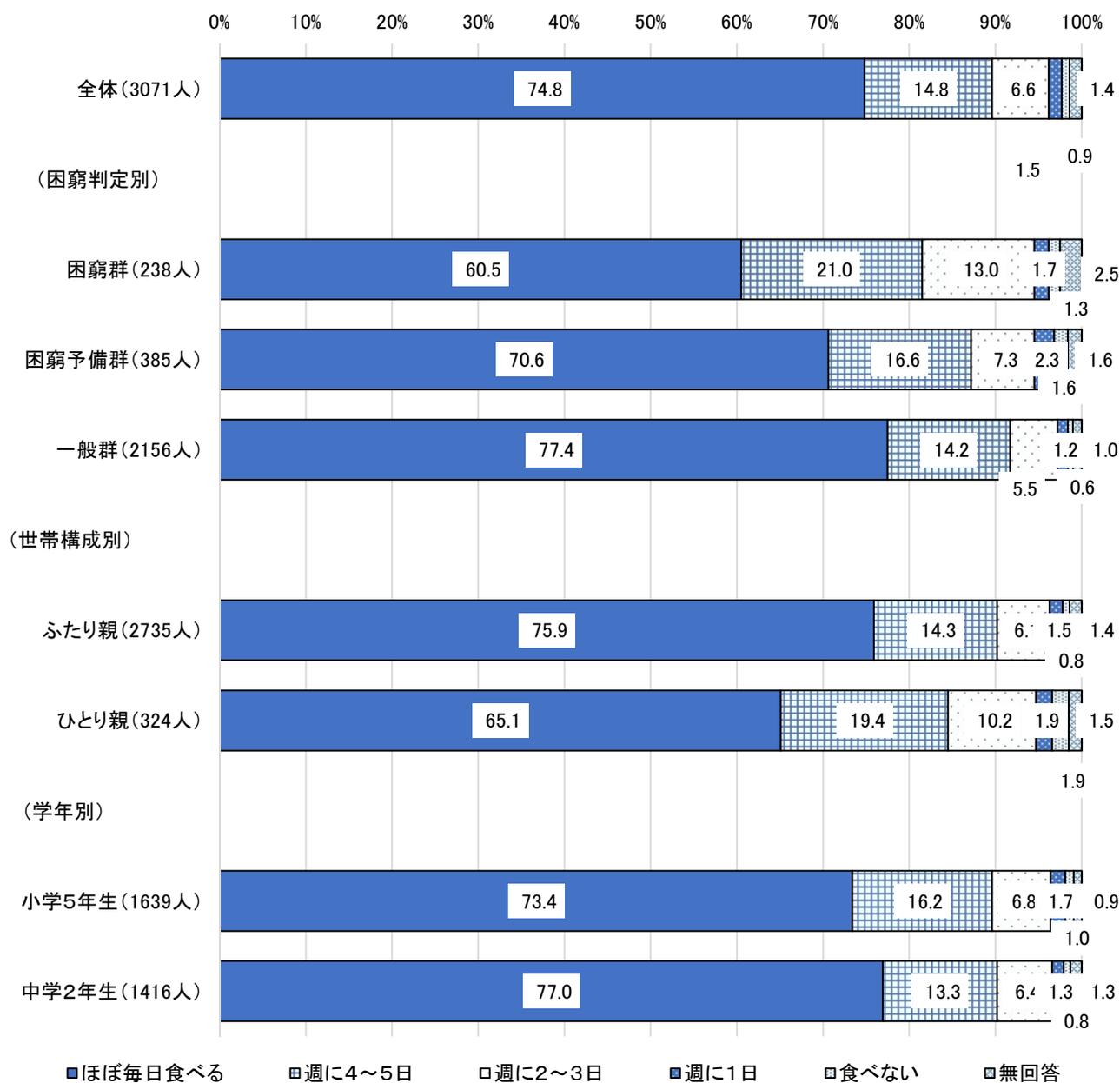


*目盛りの下限値を70%で調整

週にどのくらい朝食をとっているかについて、全体では「毎日食べる」が88.8%で圧倒的に高かった。困窮判定別にみると、困窮群でも「毎日食べる」が83.2%と高かったが、困窮度合いが高いほど「毎日食べる」が低くなっている。

世帯構成別に「毎日食べる」をみると、ふたり親が90.1%、ひとり親が78.7%となり、ひとり親のほうが11.4ポイント低かった。

給食を除き、野菜をどれくらい食べているか 「子ども調査 問7-a」

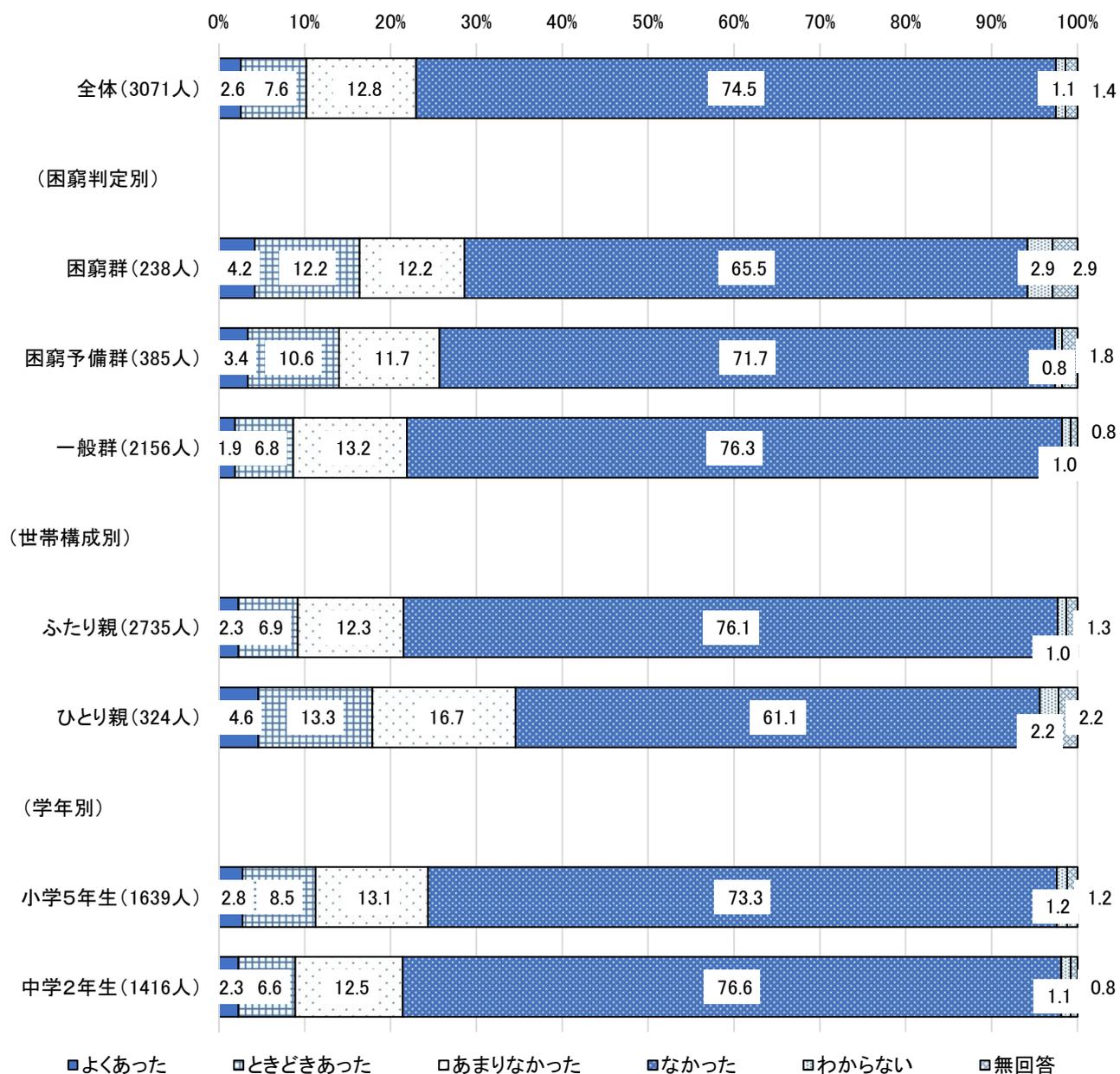


給食を除き、野菜をどれくらい食べているかについて、全体では「ほぼ毎日食べる」が74.8%で最も高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「ほぼ毎日食べる」が低かった。

世帯構成別に「ほぼ毎日食べる」をみると、ふたり親が75.9%、ひとり親が65.1%となり、ひとり親のほうが10.8ポイント低かった。

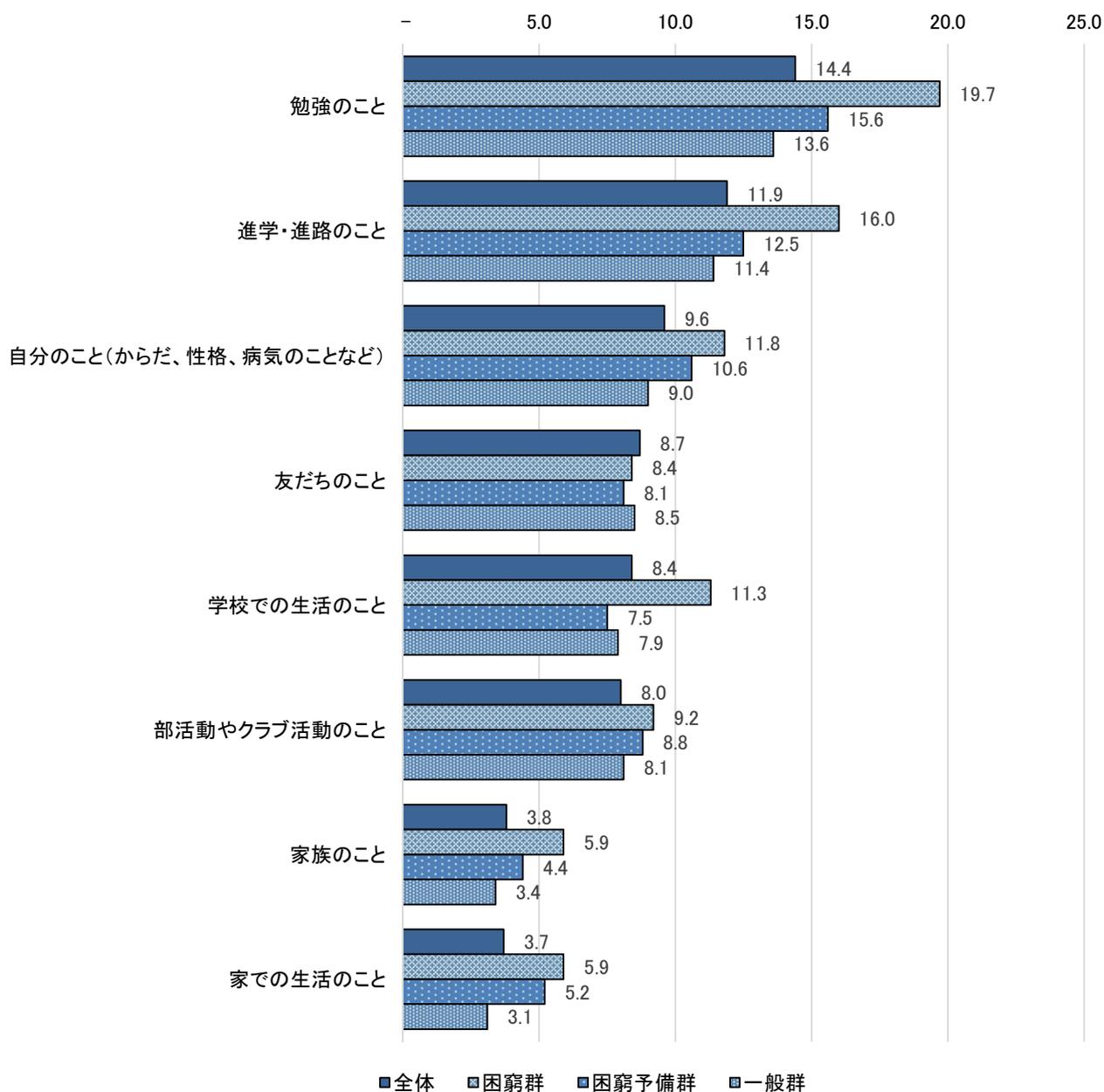
学校に遅刻したことがあるか 「子ども調査 問 23-e」



学校に遅刻したことがあるかについて、全体では「なかった」が74.5%で最も高かった。「よくあった」(2.6%)と「あった」(7.6%)を合わせた『あった』は10.2%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『あった』が高くなり、「なかった」が低くなっている。世帯構成別にみると、『あった』はひとり親のほうが8.7ポイント高かった。

誰かに相談したいこと 「子ども調査 問 15」



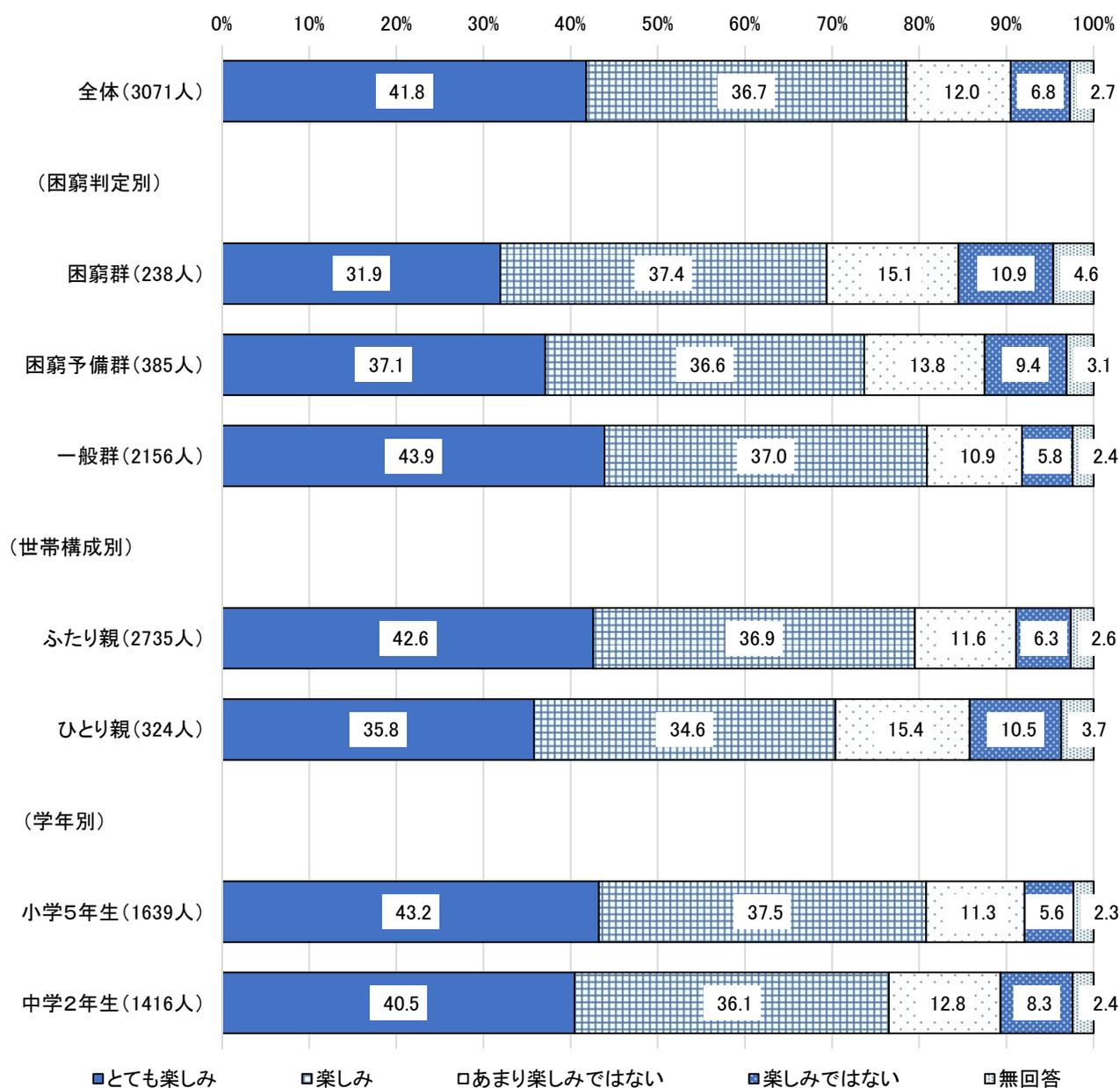
*「その他」「特にない」「無回答」は非表示

誰かに相談したいことについて、全体では「勉強のこと」が14.4%で最も高く、次いで「進路のこと」(11.9%)、「自分のこと」(9.6%)の順に高かった。

困窮判定別にみると、「勉強のこと」「進学・進路のこと」など7つの選択肢で困窮群の回答割合が最も高かった。

③社会性・将来の自立

部活動やクラブ活動について 「子ども調査 問 17-e」

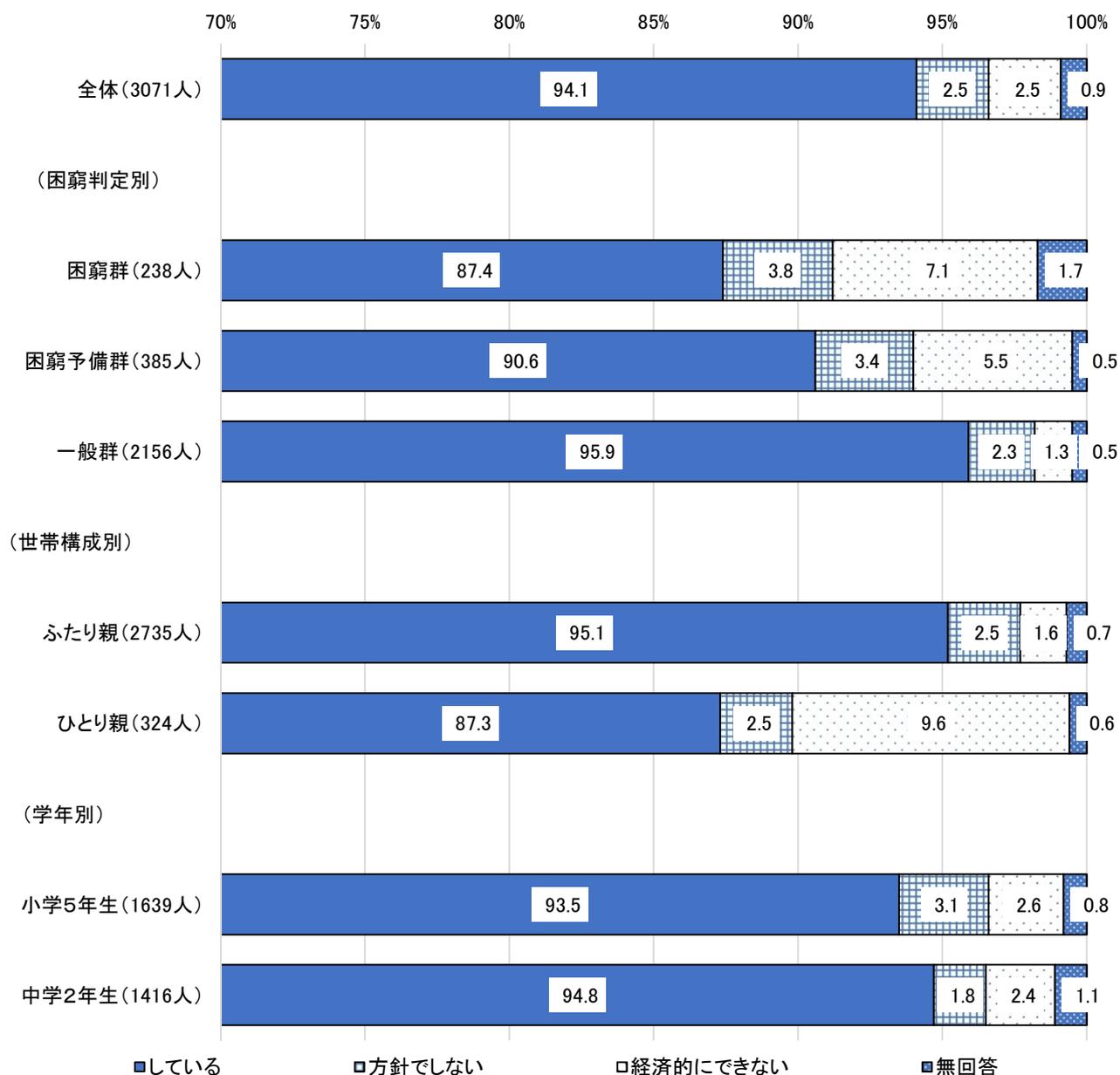


部活動やクラブ活動について、全体では「とても楽しみ」が41.8%で最も高かった。「とても楽しみ」と「楽しみ」(36.7%)を合わせた『楽しみ』は78.5%で、「あまり楽しみではない」(12.0%)と「楽しみではない」(6.8%)を合わせた『楽しみではない』は18.8%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『楽しみ』が低くなり、『楽しみではない』が高くなっている。ただし、困窮群でも『楽しみ』(69.3%)が『楽しみではない』(26.0%)を大幅に上回っている。

世帯構成別に『楽しみ』をみると、ふたり親が79.5%、ひとり親が70.4%となり、ふたり親のほうが9.1ポイント高かった。

子どもが自宅で勉強ができる場所について 「保護者調査 問 16-i」



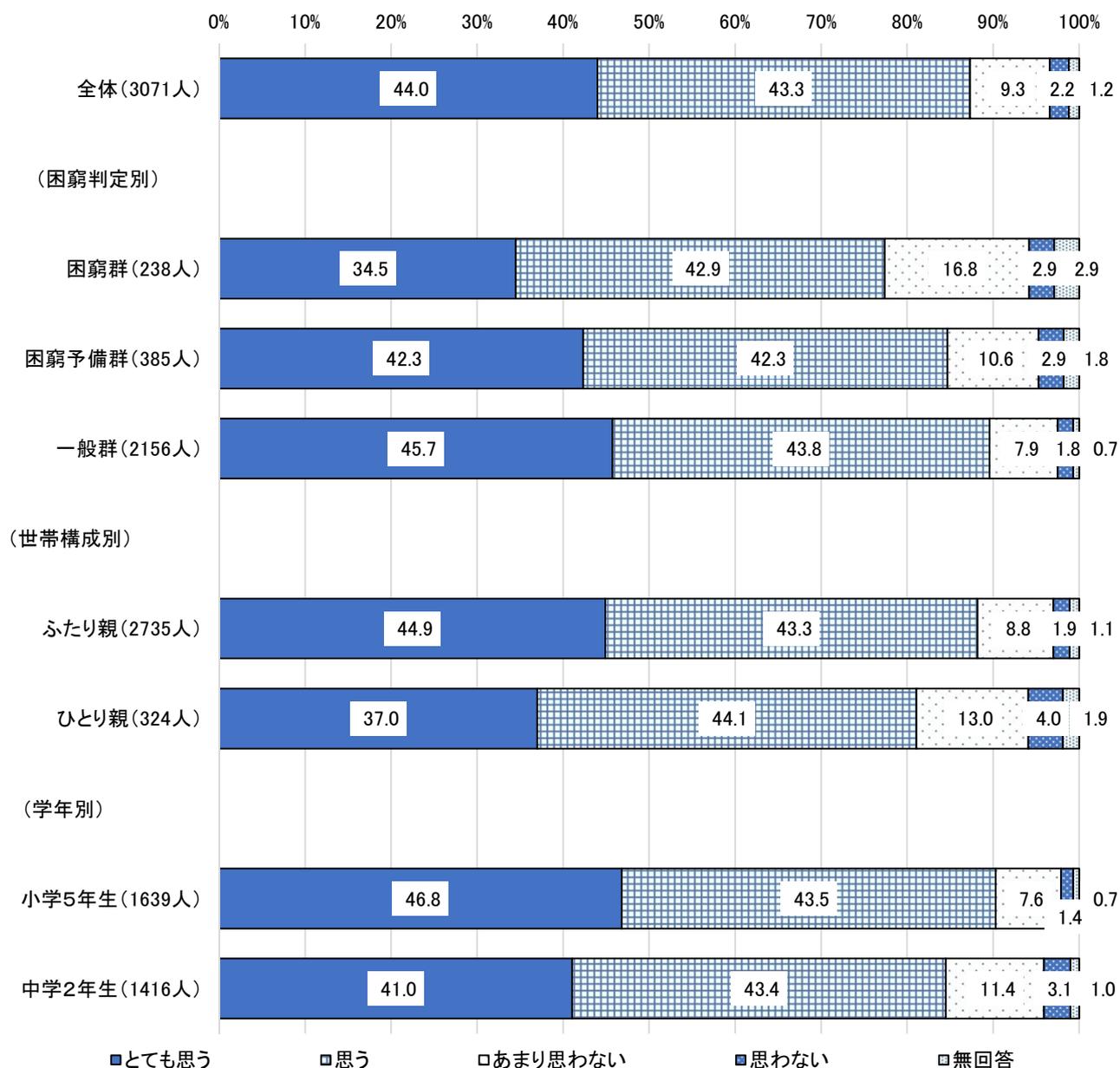
*目盛りの下限値を 70%で調整

子どもが自宅で勉強する場所を用意しているかについて、全体では「している」が 94.1%で圧倒的に高かった。

困窮判定別にみると、困窮群でも「している」が 87.4%と高かったが、困窮度合いが高いほど「している」が低くなっている。

世帯構成別にみると、ひとり親は「経済的にできない」が 9.6%と相対的に高かった。

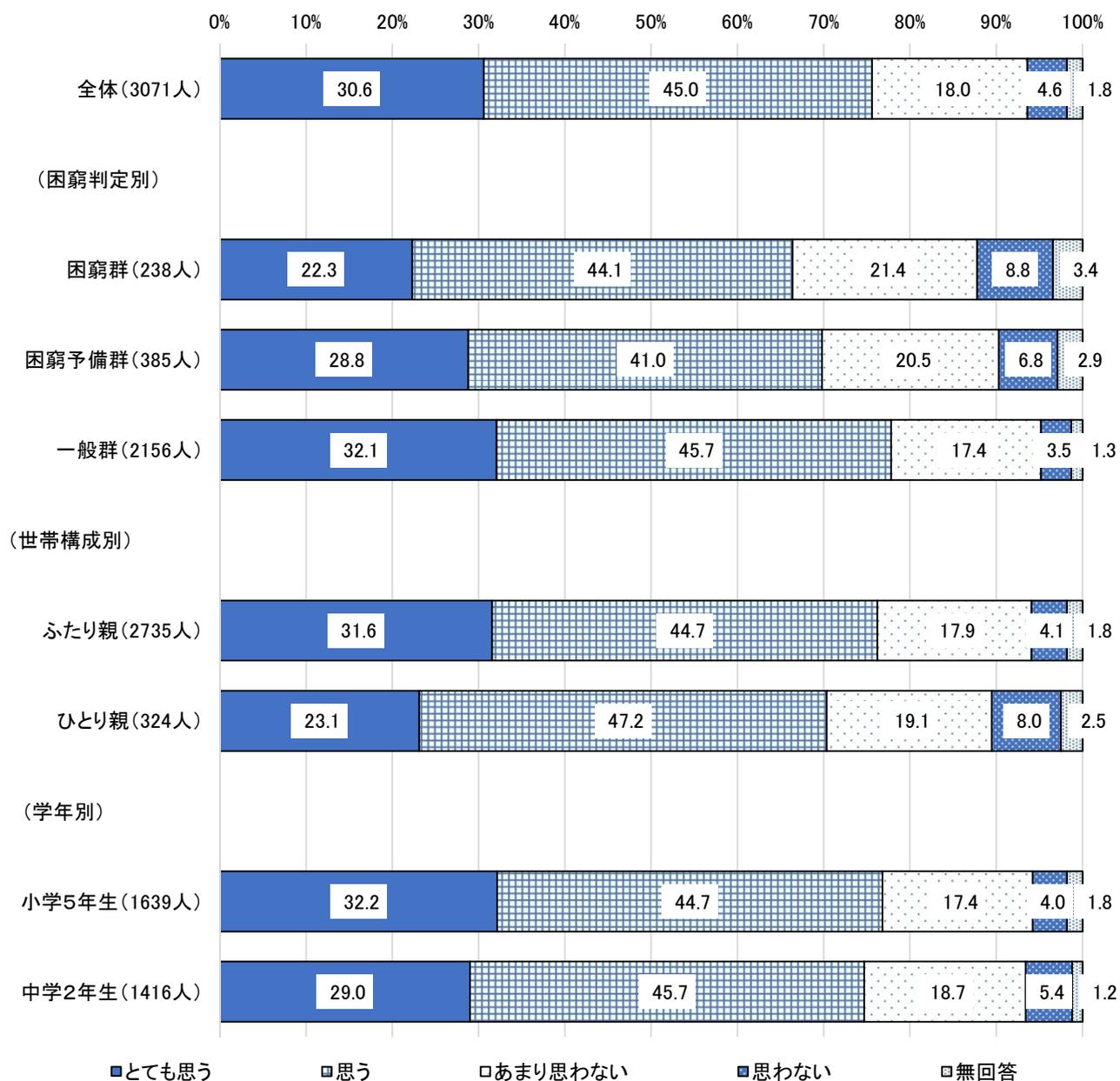
がんばれば良いことがあると思うか 「子ども調査 問 22-a」



がんばれば良いことがあると思うかについて、全体では「とても思う」(44.0%)と「思う」(43.3%)を合わせた『思う』は87.3%となった。「あまり思わない」(9.3%)と「思わない」(2.2%)を合わせた『思わない』は11.5%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『思う』が低くなり、『思わない』が高くなっている。世帯構成別にみると、『思う』はふたり親のほうが高く、『思わない』はひとり親のほうが高かった。

自分には長所があると思うか 「子ども調査 問 22-b」



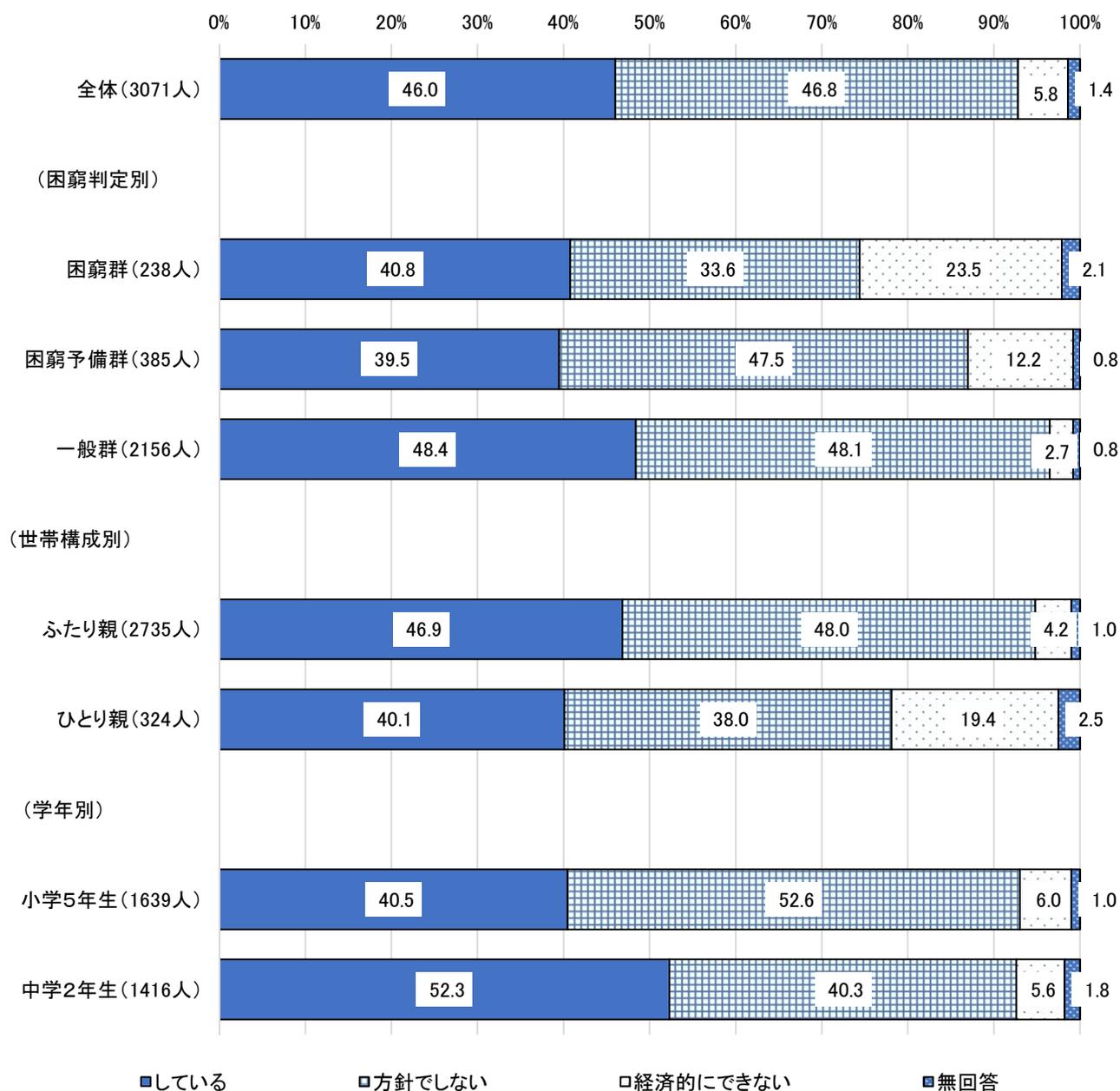
自分には長所があると思うかについて、全体では「とても思う」(30.6%)と「思う」(45.0%)を合わせた『思う』は75.6%となった。「あまり思わない」(18.0%)と「思わない」(4.6%)を合わせた『思わない』は22.6%となった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど『思う』が低くなり、『思わない』が高くなっている。世帯構成別にみると、『思う』はふたり親のほうが高く、『思わない』はひとり親のほうが高かった。

(2) 保護者の状況

①家庭と経済的困窮の状況

子どもに毎月小遣いを渡しているか 「保護者調査 問 16-a」

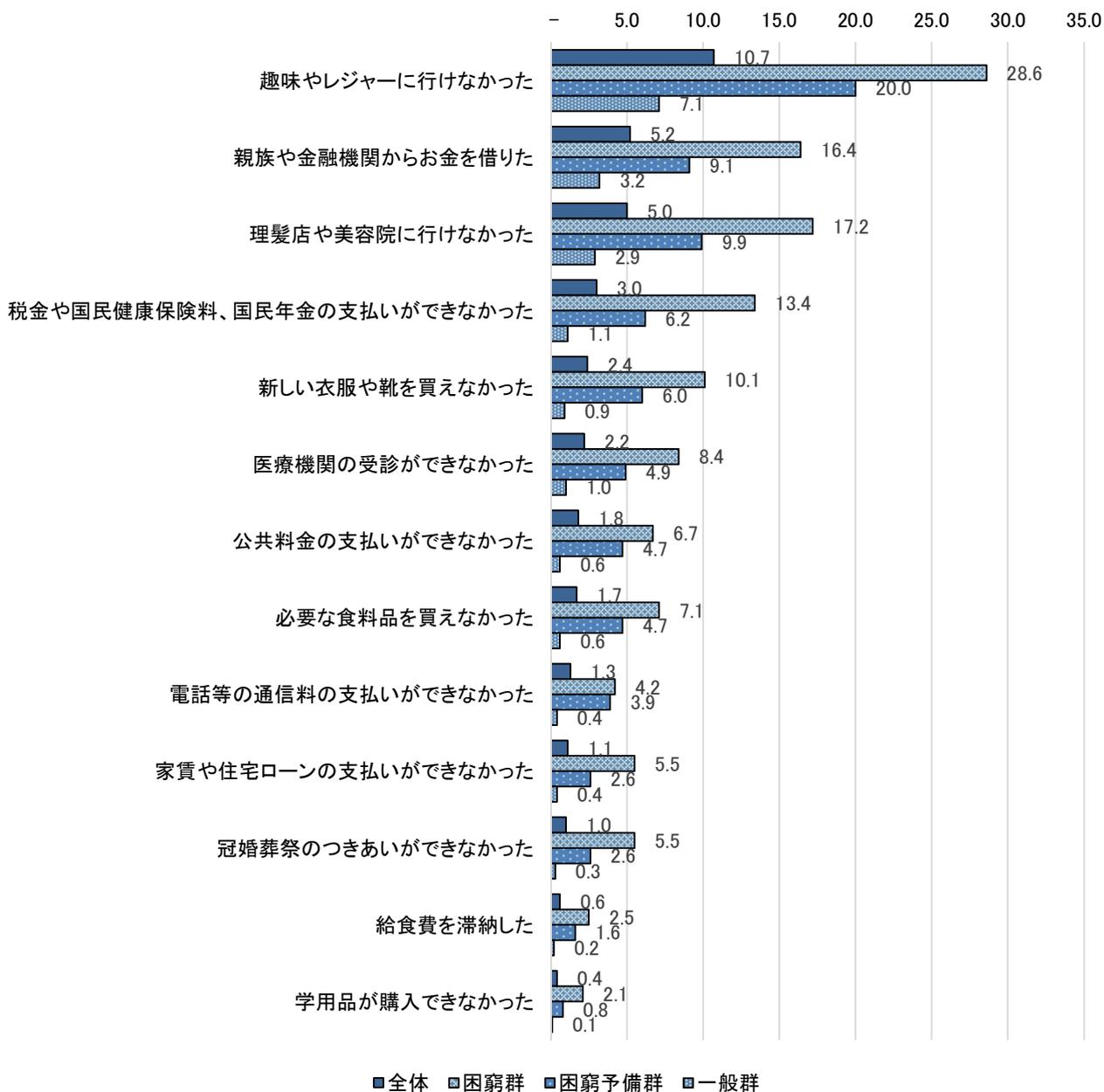


子どもに毎月小遣いを渡しているかについて、全体では「している」と「方針でない」がほぼ半々で合わせて92.8%を占めた。「経済的にできない」は5.8%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「経済的にできない」は高くなり、困窮群は「経済的にできない」が23.5%あった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「経済的にできない」が19.4%となり、ふたり親の4.2%と比較して15.2ポイント高かった。

経済的理由で経験したこと（過去1年間） 「保護者調査 問17」

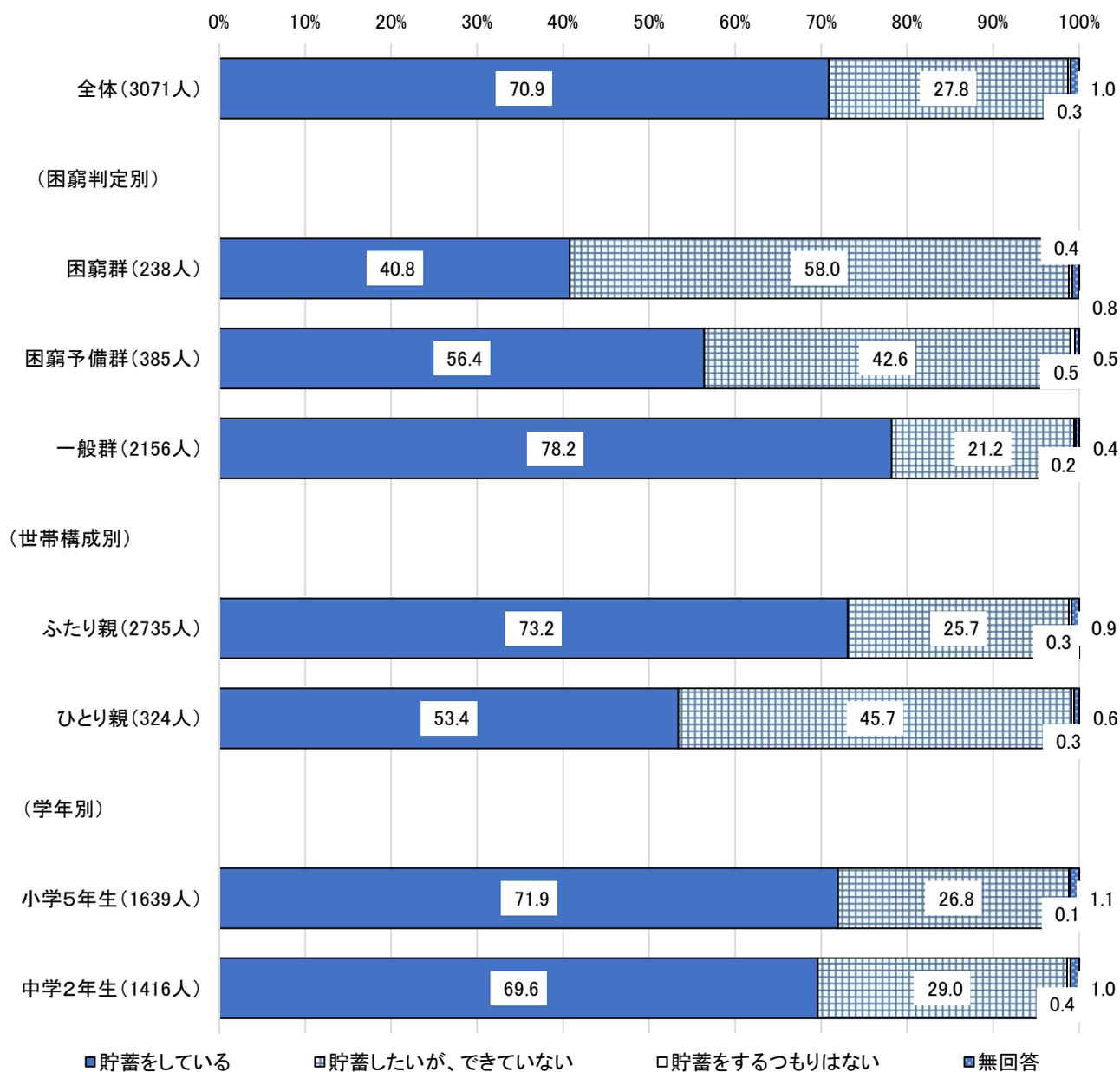


*「特にない」「無回答」は非表示

過去1年間で経済的理由で経験したことについて、全体では「趣味やレジャーに行けなかった」が10.7%で最も高く、次いで「親族や金融機関からお金を借りた」(5.2%)、「理髪店や美容院に行けなかった」(5.0%)の順に高かった。

困窮判定別にみると、全ての選択肢で困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。

子どもの将来のために貯蓄をしているか 「保護者調査 問 24」



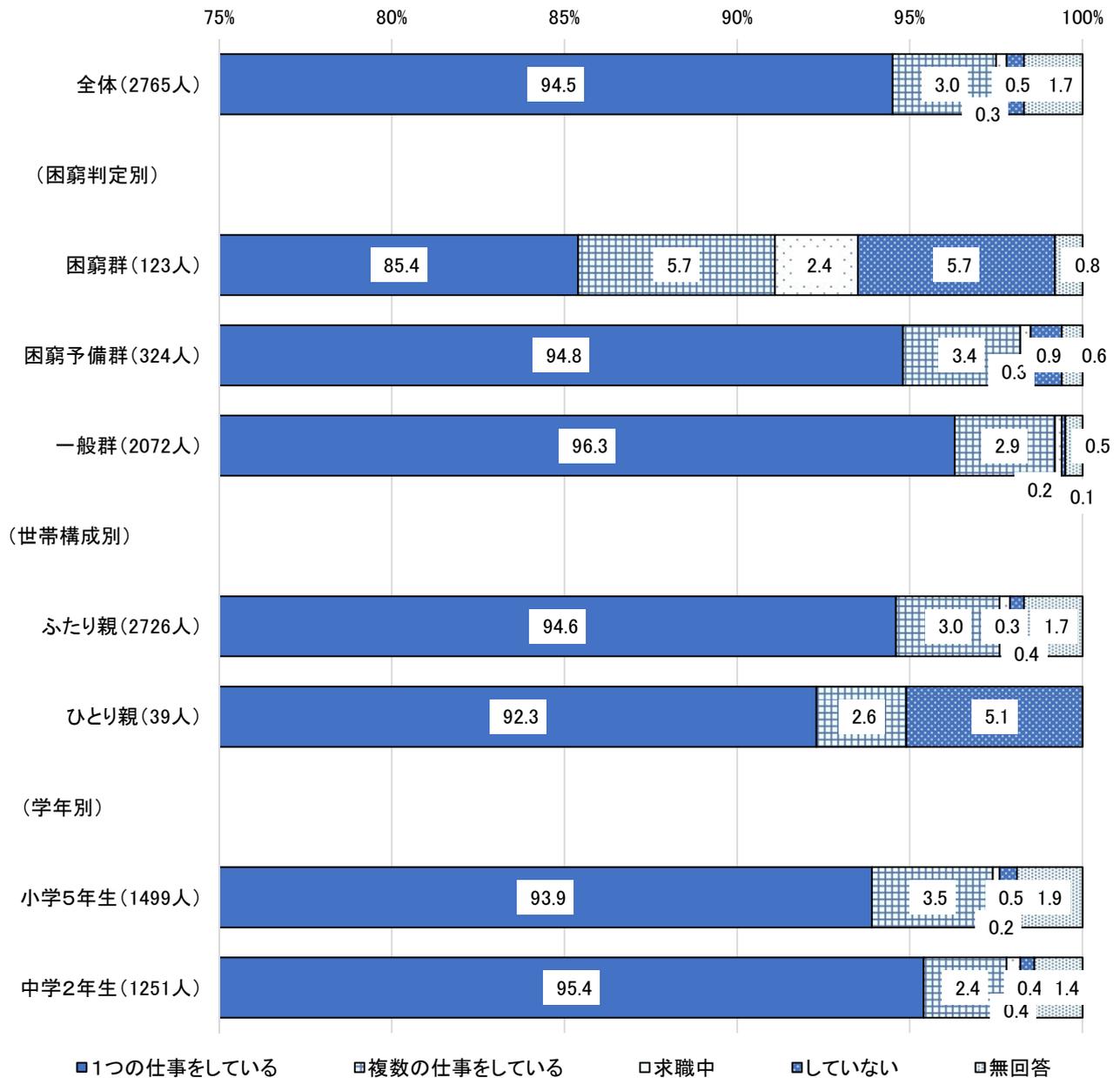
子どもために貯蓄をしているかについて、全体では「している」が70.9%を占めた。「貯蓄したいが、できていない」は27.8%で、「貯蓄するつもりはない」は0.3%にとどまった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「貯蓄したいが、できていない」が高くなり、困窮群は「貯蓄したいが、できていない」が58.0%と「貯蓄している」(40.8%)を上回った。困窮群においても、「貯蓄するつもりはない」は0.8%と僅かだった。

世帯構成別に「貯蓄したいが、できていない」をみると、ふたり親が25.7%、ひとり親が45.7%となり、ひとり親のほうが20.0ポイント高かった。

②就労と子育ての両立

保護者の就労状況（父親） 「保護者調査 問8」



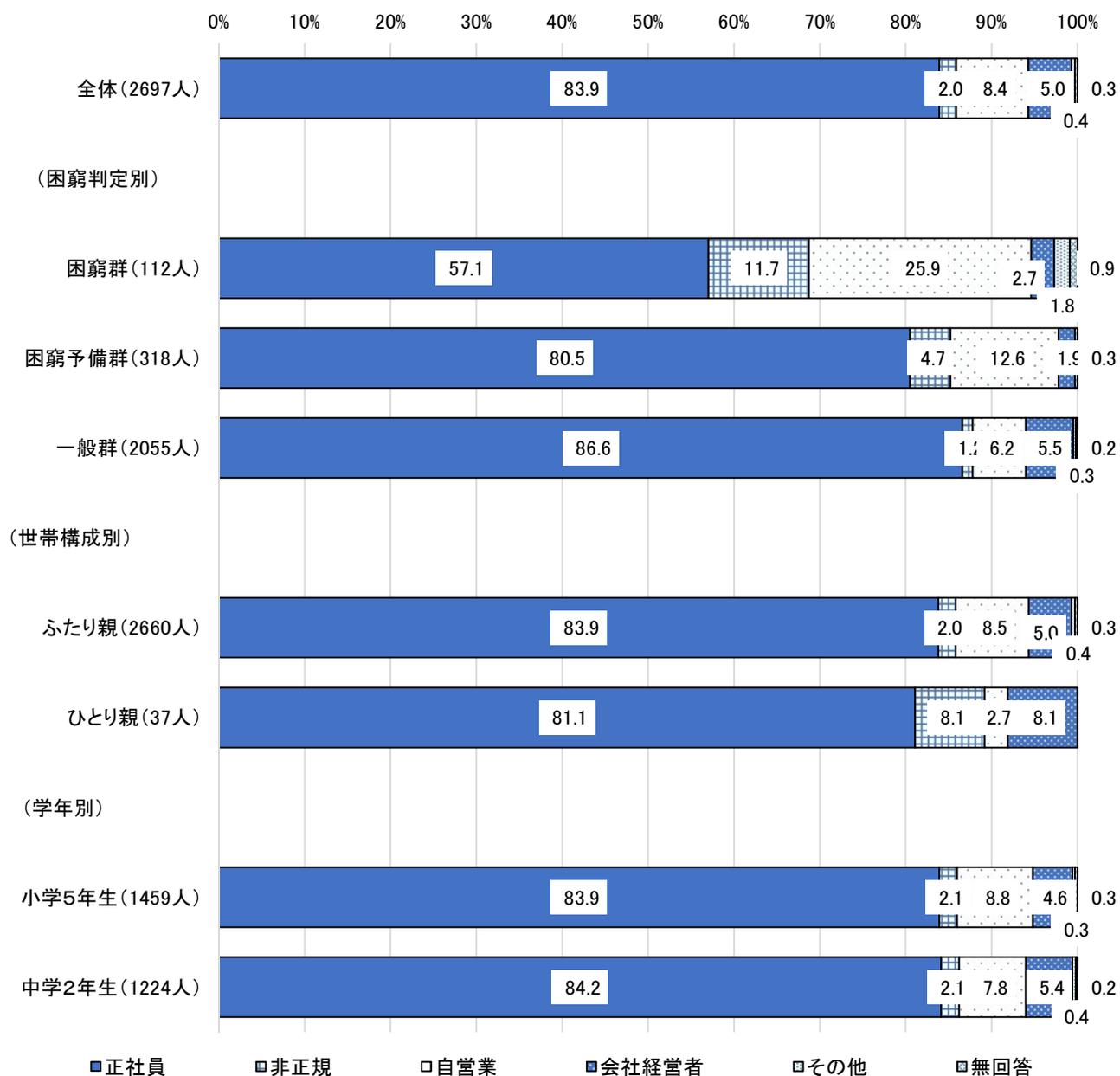
* 目盛りの下限値を 75%で調整

父親の就業状況について、全体では「1つの仕事をしている」が 94.5%を占めた。

困窮判定別にみると、困窮分は「複数の仕事をしている」「求職中」「していない」が相対的に高かった。

世帯構成別にみると、ひとり親（=父子家庭）は「していない」が 5.1%と相対的に高かった。

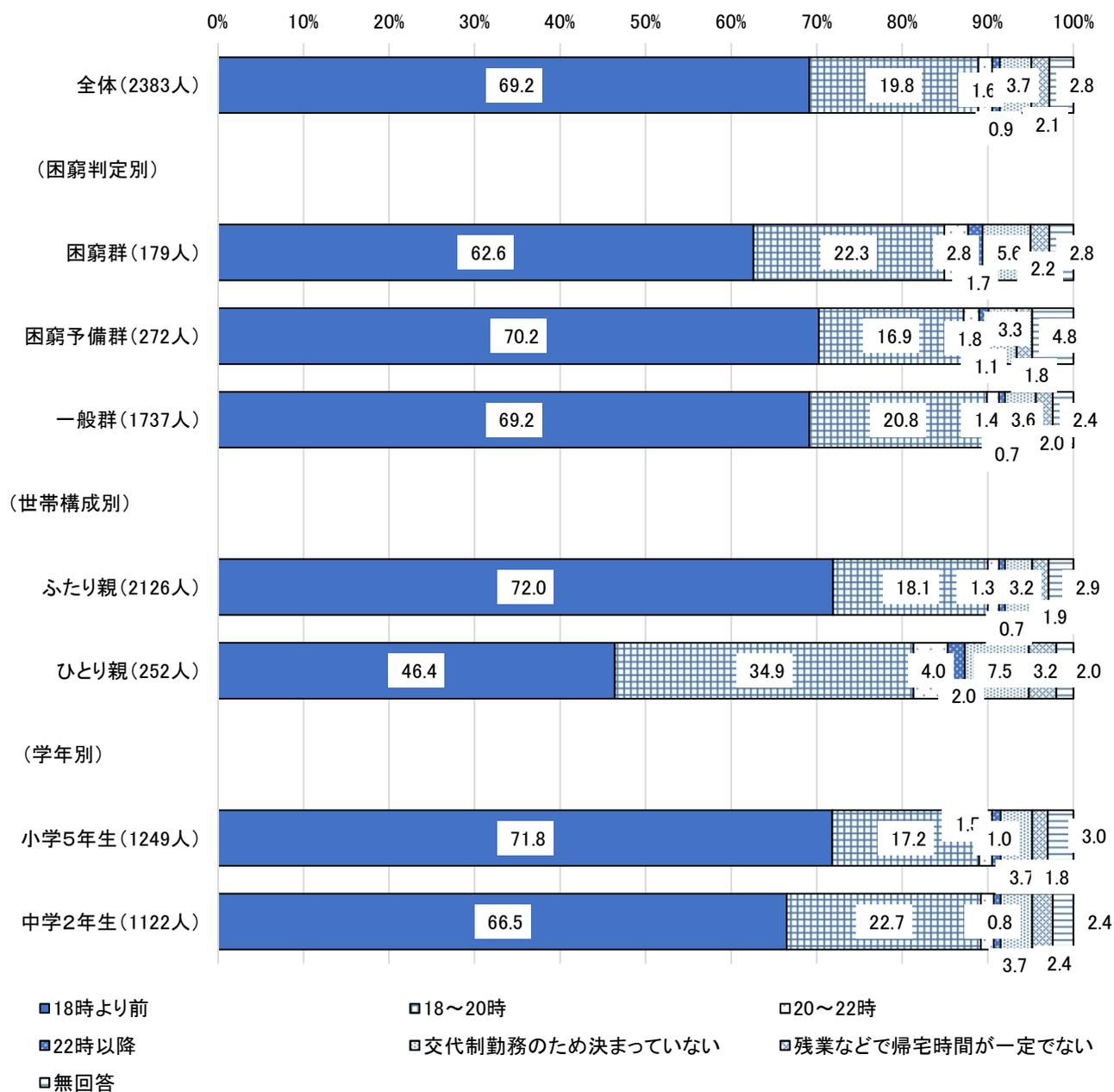
保護者の雇用形態（父親） 「保護者調査 問9」



父親の雇用形態について、全体では「正社員」が83.9%を占め、「非正規」は2.0%にとどまった。困窮判定別にみると、困窮群は「正社員」が57.1%と低く、「非正規」「自営業」が相対的に高かった。世帯構成別にみると、ひとり親（＝父子家庭）は「非正規」が相対的に高かった。

* 「非正規」は、設問の選択肢「嘱託・契約社員・準社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」を合算

保護者の帰宅時間（母親） 「保護者調査 問10」

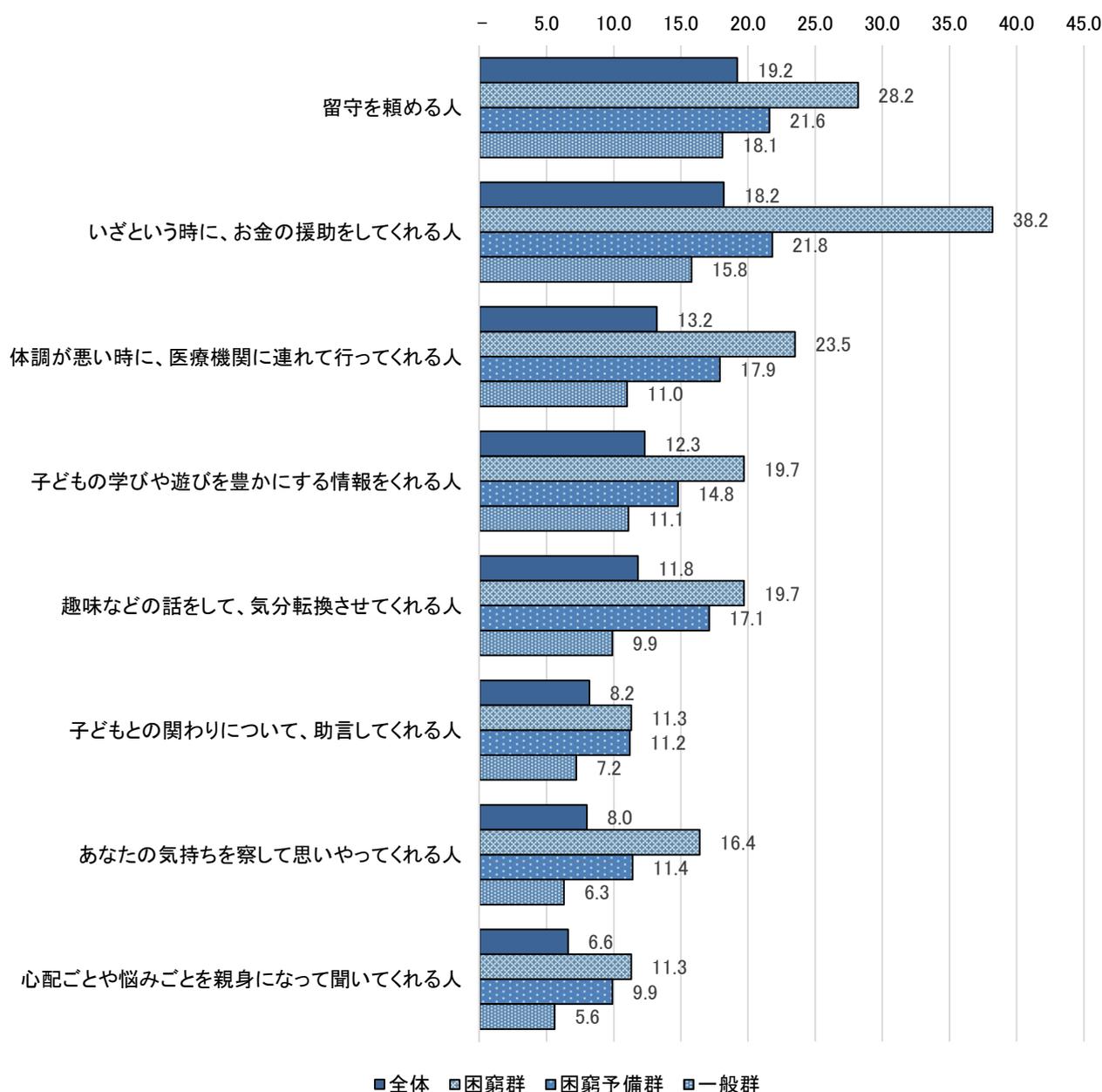


働いている母親の帰宅時間について、全体では「18時より前」が69.2%で最も高く、次いで「18～20時」（19.8%）が高かった。『20時まで』は89.0%だった。

世帯構成別にみると、ひとり親家庭（＝母子家庭）は、「18時より前」が46.4%と半分以下となり、帰宅時間が遅くなる傾向がみられた。

③保護者の孤立・悩み

相談相手等について（相手がいない割合） 「保護者調査 問 27」

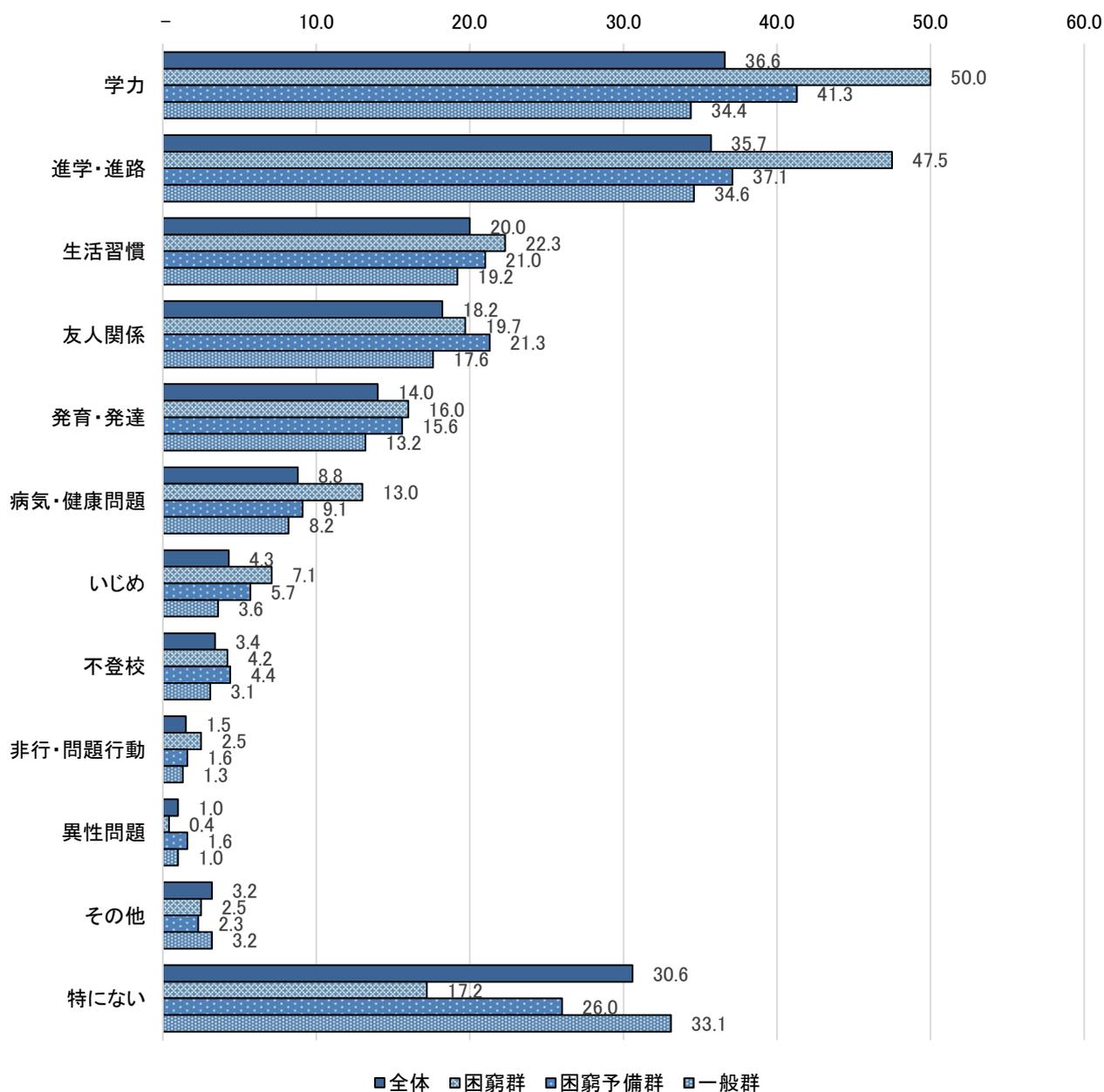


*「無回答」は非表示

相談相手等がないことについて、全体では「留守を頼める人」が19.2%で最も高く、次いで「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」(18.2%)、「体調が悪い時に、医療機関に連れて行ってくれる人」(13.2%)の順に高かった。

困窮判定別にみると、全ての選択肢で困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。困窮群は「いざという時に、お金の援助をしてくれる人」が38.2%で最も高かった。

子どもに関する悩み 「保護者調査 問 25」

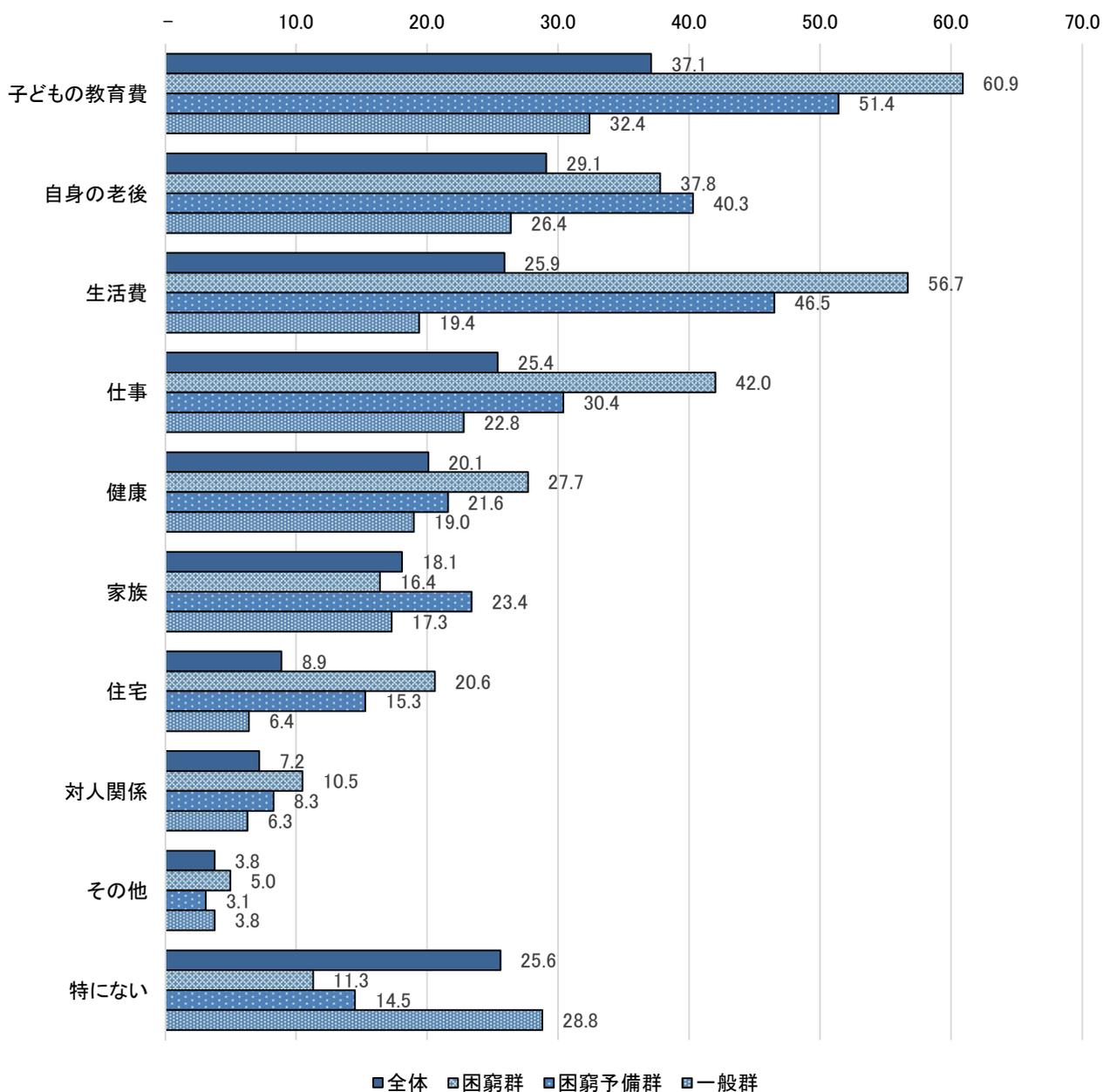


*「無回答」は非表示

保護者の子どもに関する悩みについて、全体では「学力」が36.6%で最も高く、次いで「進学・進路」(35.7%)、「特にない」(30.6%)の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「特にない」が低くなり、概ね他の選択肢の回答割合が高くなっている。困窮群と一般群を比較すると、「学力」「進学・進路」は困窮群のほうが10ポイント以上高かった。

保護者自信の悩み 「保護者調査 問 26」



*「無回答」は非表示

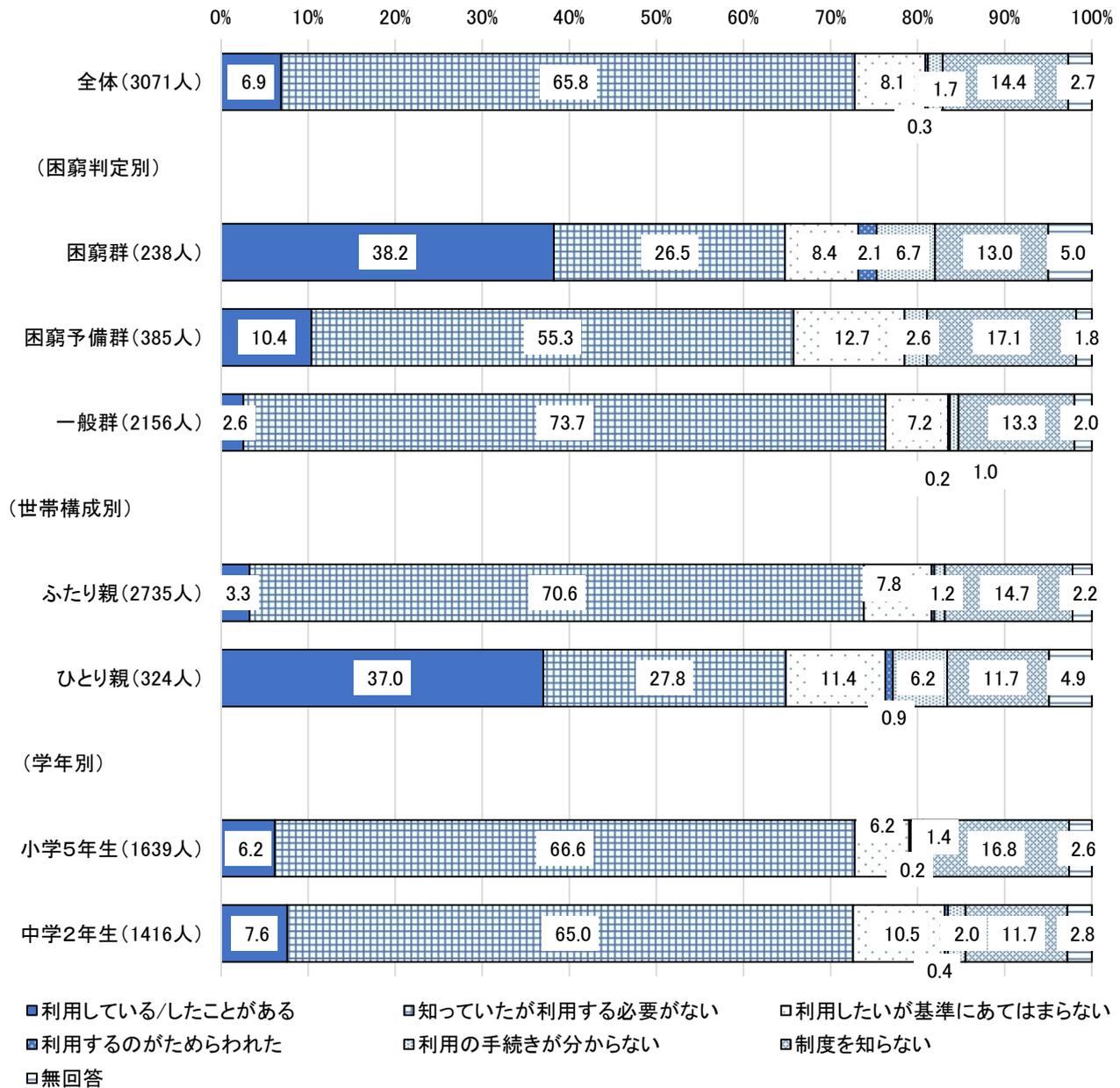
保護者の子どもに関する悩みについて、全体では「子どもの教育費」が37.1%で最も高く、次いで「自身の老後」(29.1%)、「生活費」(25.9%)の順に高かった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「特にない」が低くなり、概ね他の選択肢の回答割合が高くなっている。困窮群と一般群を比較すると、「子どもの教育費」「自身の老後」「生活費」「仕事」「住宅」は困窮群のほうが10ポイント以上高かった。

(3) 各種支援・サービスの活用・認知状況

①保護者の事業利用状況

就学援助の利用 「保護者調査 問 29-a」



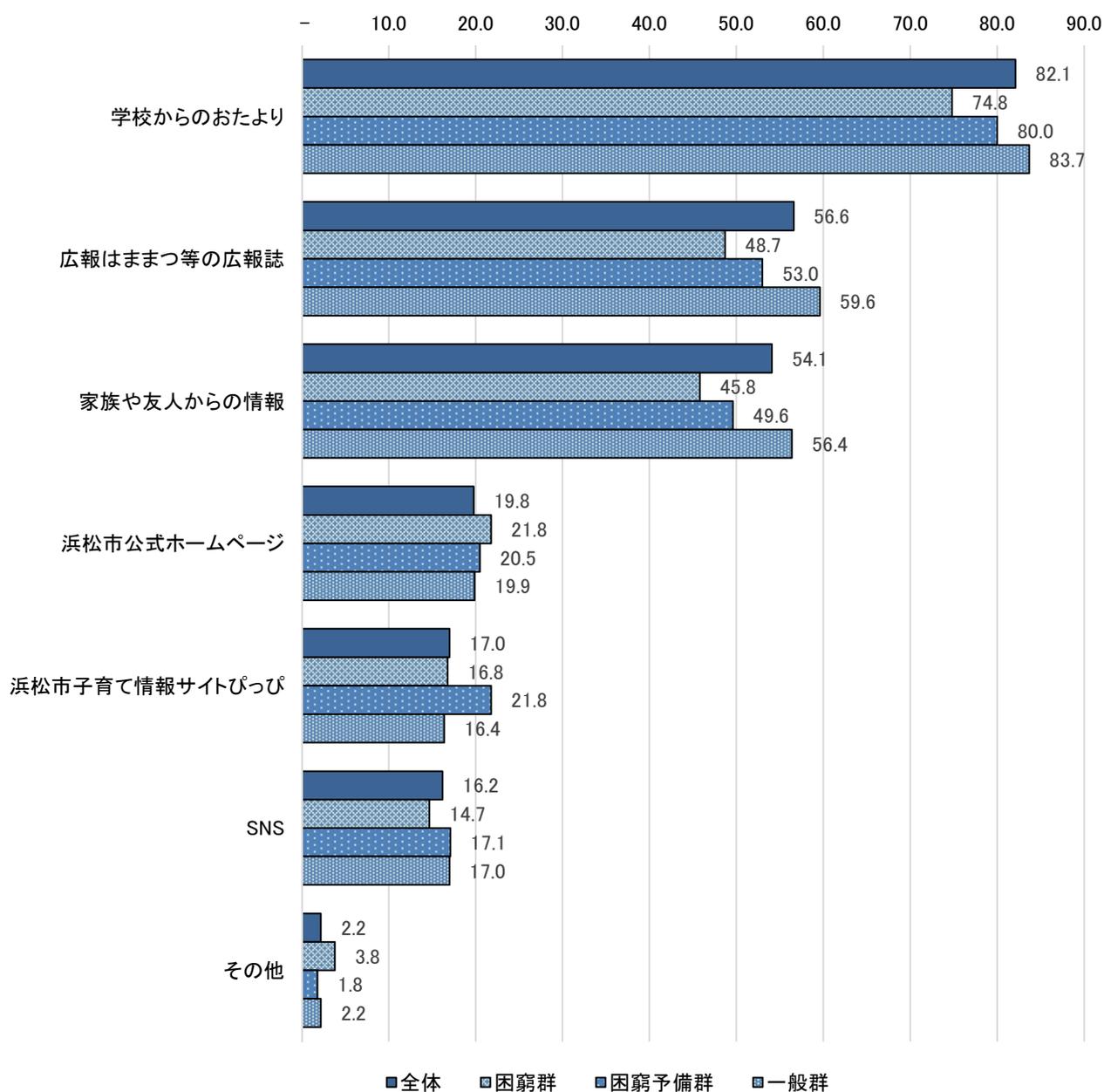
就学援助の利用について、全体では「知っているが利用する必要がある」が65.8%で最も高く、「利用している/したことがある」は6.9%だった。

困窮判定別にみると、困窮度合いが高いほど「利用している/したことがある」が高くなり、困窮群は「利用している/したことがある」が38.2%となった。困窮群は「利用の手続きが分からない」は6.7%、「制度を知らない」は13.0%あった。

世帯構成別にみると、ひとり親は「利用している/したことがある」が37.0%と高かった。

②情報収集の現状と今後のニーズ

情報収集の現状 「保護者調査 問 28-a」

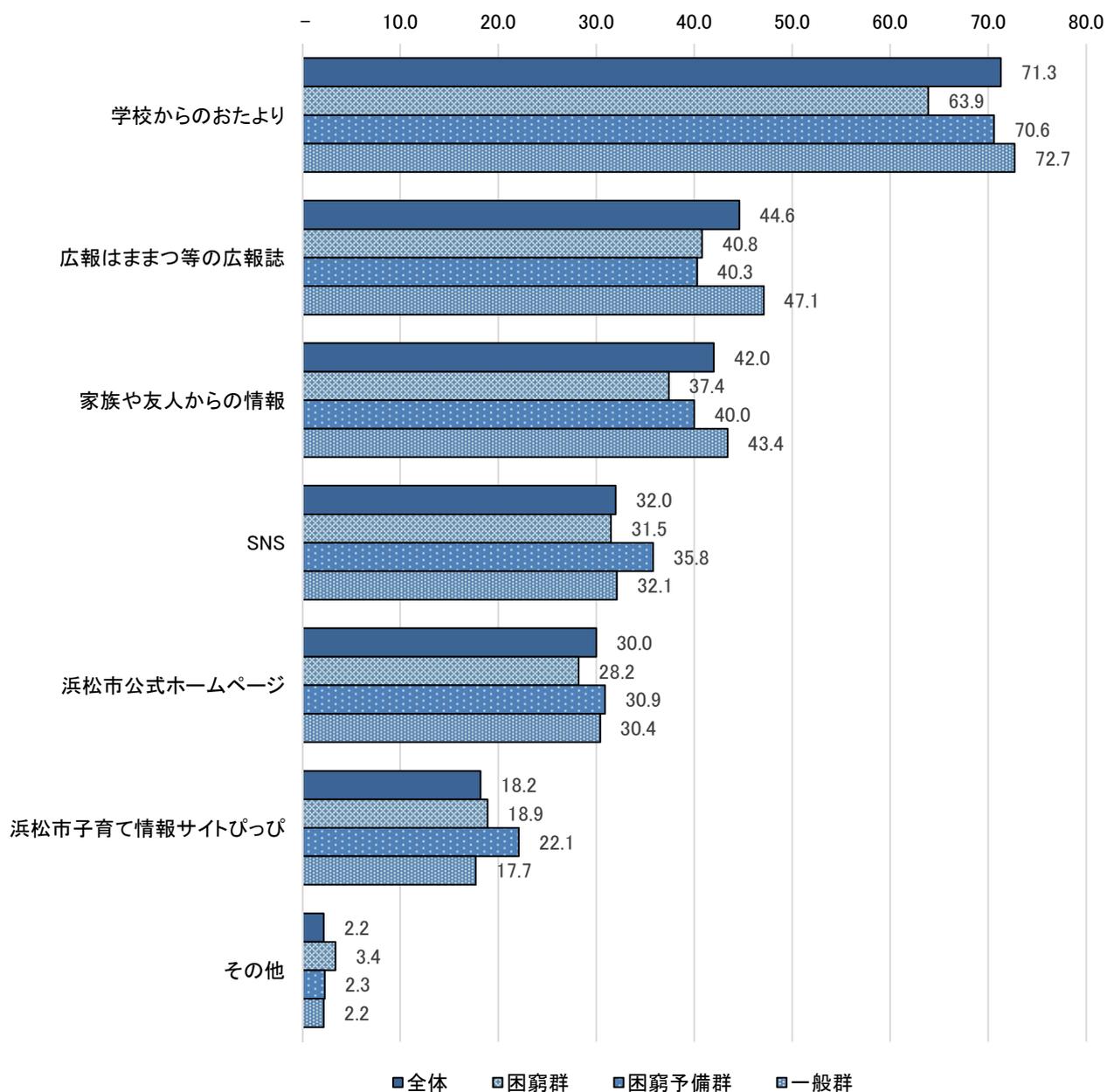


*「無回答」は非表示

子育て支援策等の現状の情報入手方法について、全体では「学校からのおたより」が82.1%で最も高く、次いで「広報はままつ等の広報誌」(56.6%)、「家族や友人からの情報」(54.1%)の順に高かった。

困窮群も全体同様、「学校からのおたより」「広報はままつ等の広報誌」「家族や友人からの情報」の順に高かった。

今後希望する情報収集方法 「保護者調査 問 28- b」



*「無回答」は非表示

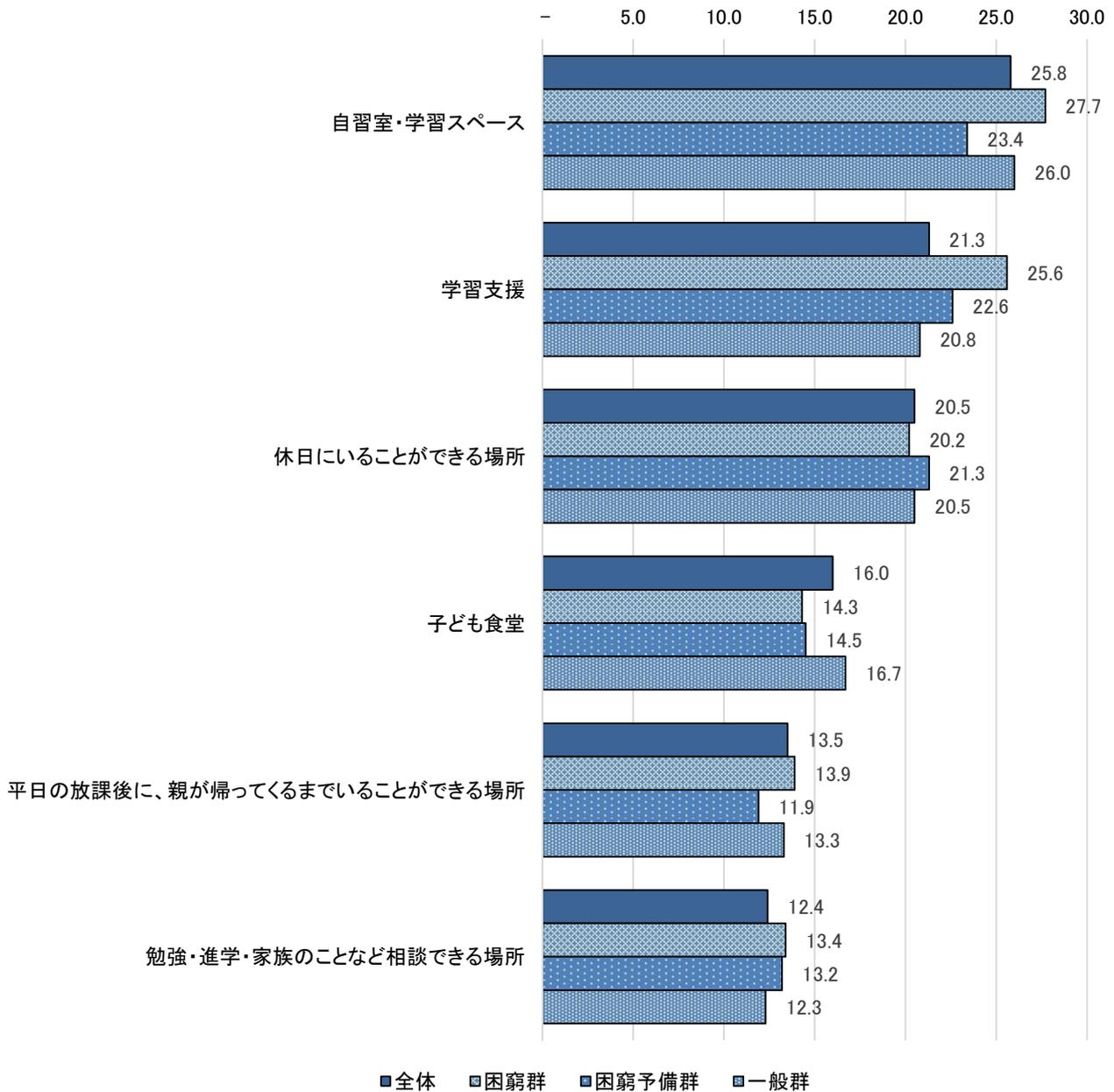
子育て支援策等の今後希望する情報入手方法について、全体では「学校からのおたより」が 71.3%で最も高く、次いで「広報はままつ等の広報誌」（44.6%）、「家族や友人からの情報」（42.0%）の順に高かった。「SNS」は 32.0%で 4 番目に高く、現状（16.2%）よりも 15.8 ポイント高かった。

困窮群も全体同様、「学校からのおたより」「広報はままつ等の広報誌」「家族や友人からの情報」「SNS」の順に高かった。「SNS」が現状（14.7%）より 16.8 ポイント高かった。

(4) 貧困対策事業の利用ニーズ

①子どものニーズ

利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合） 「子ども調査 問 24」



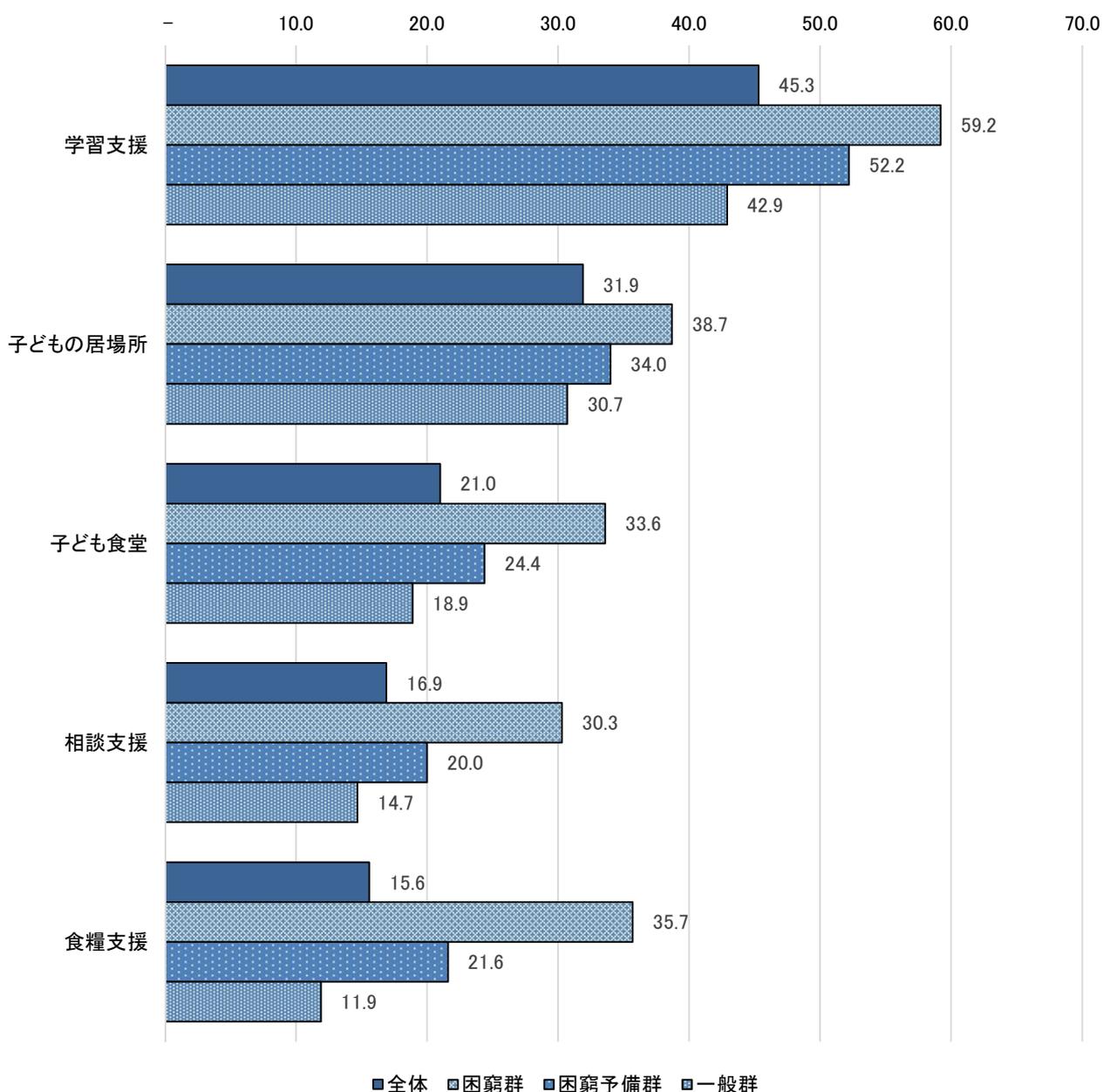
*「無回答」は非表示

貧困対策事業の利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）について、全体では「自習室・学習スペース」が25.8%で最も高く、次いで「学習支援」（21.3%）、「休日にいることができる場所」（20.5%）の順に高かった。

困窮判定別に見ると、「学習支援」は生活困窮度合いが高いほど回答割合も高かった。保護者にたずねた利用ニーズと比較すると、群ごとの差は小さかった。

②保護者のニーズ

利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合） 「保護者調査 問 30」



* 「無回答」は非表示

貧困対策事業の利用ニーズ（「使ってみたい」の回答割合）について、全体では「学習支援」が45.3%で最も高く、次いで「子どもの居場所」（31.9%）、「子ども食堂」（21.0%）の順位に高かった。

困窮判定別にみると、いずれの項目も生活困窮度合いが高いほど回答割合も高く、子どもにたずねた利用ニーズと比較すると、群ごとの差は大きかった。困窮群はいずれの項目も回答割合が3割を超えている。

(5) 自由意見まとめ

①子どもの意見

浜松市にしてもらいたいこと 「子ども調査 問 26」

記載のあった意見を内容ごとに分類し、以下のようにまとめた。

	件数
学校（校則、授業、施設、設備など）	568
浜松市について（イベント、施設）	290
子どもの居場所（公園、自習室、相談室など）	185
新型コロナウイルスについて	128
夢、願望	123
お金について	120
民間施設について	112
環境問題、防災	78
通学路、通学手段など	75
学習支援	57
いじめ	32
先生	30
その他	45

最も多かったのは「学校（校則、授業、施設、設備など）」で568件だった。次いで、「浜松市について（イベント、施設）」（290件）、「子どもの居場所（公園、自習室、相談室など）」（185件）の順に多かった。

上記のほかに、「新型コロナウイルスについて」「夢、願望」「お金について」「民間施設について」も100件以上の回答があった。

最も多かった「学校（校則、授業、施設、設備など）」をさらに細かく分類すると、「エアコン設置要望」が94件で最も多く、次いでリモート授業・タブレット配布などの「ICT環境整備」（84件）で多かった。

②保護者の自由意見

子どもの成長に必要と思う支援や取り組み 「保護者調査 問 31」

記載のあった意見を内容ごとに分類し、以下のようにまとめた。

	件数
子どもの居場所・交流等	148
子育て支援全般の意見	111
学校関連	102
高校・大学の無償化・支援等	74
親・家庭の環境、親の教育	62
児童手当	51
安全・安心な地域づくり	51
相談支援について	47
不登校・発達支援	46
医療費について	41
新型コロナウイルスについて	40
学童保育・預かり場所等	37
学習支援	35
ひとり親に関すること	26
文化施設・スポーツ施設について	25
いじめ	10
その他	101

最も多かったのは「子ども居場所・交流等」で148件だった。次いで、「子育て支援全般の意見」(111件)、「学校関連」(102件)の順に多かった。

「子ども居場所・交流等」をさらに細かく分類すると、「外で遊べる場所」が79件で最も多かった。その他、「多様な人との交流」(20件)、「長期休暇時の居場所」(15件)、「子ども食堂」(11件)が多かった。

